

区画整理記念事業の計画案出た！

記念会館と拠点病院を一体整備

「やっと出たかー」。戦災から港区を復興させ、水害に強い街の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」(一九四八―一九九)この足跡を記念施設として残そうという計画が進まず、疑問の声が上がっていましたが、所管の大阪府は十一月十日、元地権者代表である「港地区土地区画整理協議会」に「計画案」を提示、賛同を得ました。これにより二十二年の停滞を打破して具体化へ区民議論の道が開けました。回案は弁天駅前(土地四千㎡)と資金四十八億円を使い、記念会館(二〇二二年度開設)と拠点病院(二〇一九年度開業)を一体で整備するといつもの。ただ計画案提示に至る水面下での交渉や「一月に案決定」との切迫した日程に「区民不在」との批判も出ています。

区民センターなど廃止、図書館移設、交渉過程や切迫日程に批判も

まず大阪市から提示された「計画案」の内容を

見てみましょう。港区役所のホームページ「弁

天町駅前土地区画整理記念事業計画案)に

いてと大阪市の担当部署(都市整備局企画部規

点開発事業担当)から本紙が受けた説明及び関

係者の話を合わせて、およそ次のように整理

されます(本紙推定含む)。表現は本紙で調整。

◆ いったん経過をたどったのが

・港区では一九四八年から一九九一年まで、戦災復興として高潮対策を兼ねて、区域の約九割(八九〇%)を約一万人、盛土・高上げするとして「港区復興土地区画整理事業」が実施された。

・この事業が終わった一九九一年、「将来、地に役立つ記念施設を造るために」と未指定地



→ 図1 区画整理記念事業の周辺図

(本来なら事業が終わる時に地権者への引き渡

し「指定」が行なわれなければならぬが、引き渡されずに残された土地)を大阪市の土地としてすることが、地権者代表である「土地区画整理審議会」で承認された。

・その後、それら未指定地のうち弁天町駅前の約二〇八五㎡(図1、参照)以外は全て売られ、その収入は記念施設の建設費として大阪市の基金に積み立てられてきた(約二十七億円)。

・大阪市はその土地の全権を使って「こんな施設を造ったらよいか、元地権者代表から成る」港区土地区画整理協議会(武智虎義会長、以下「協議会」)の声を聴きながら、「L」へを実施するなび色々と検討を重ねてきたが、事業化には至らなかった。

・ところが昨年夏、大阪みなと中央病院(築港一丁目、一九五〇年築、旧「船員保険病院」)から「建物の老朽化が進み建て替えるが必要になった。病院を運営しながら建て替えることはできない。弁天町駅前の記念事業用地に移りたいが、できない場合は市外への転出も考えない」といけな

1 図2 区画整理記念事業の敷地図



・これを受けて港区役所は、築港住民への影響も考えて水面下で「協議会にも伏せ」話し合いを重ね、十一月には回病院からの文書申入れを受けて同意に至った。

・これにより、最初に考えられていた用地の

西隣にある交通局用地も含めて同病院と一体で開発し、記念施設だけでなく、地域医療・災害時医療の拠点も造る計画になった。

・また病院跡地は、子育て層の流出や高齢化が激しい築港地域の活性化に役立つよう、家族向けマンションなどの住宅用地として一般向けに売られる計画になった。

◆記念事業の区画整理の仕組み

・建設予定地は、最初に考えられていた都市整備局用地約一〇八五㎡に交通局用地と道路を加えた約四〇〇〇㎡となる(図2参照)。



↑ 図3 区画整理記念事業の配置図

・そのため交通局用地内の変電所と隣接の交番はそれぞれ近くへ移され、道路は廃止される(歩行者の通行はできる)(図2参照)。

・そして確保された敷地全体の六割超(約一五〇〇㎡)を「大阪みなと中央病院」が九割十(徳田)推定)で買取り、「総合病院・救急病院・災害時拠点病院」(以下「拠点病院」として)移転する(建物床面積は二四〇〇〇~二八〇〇〇㎡となる)(図3参照)。

・これによって総事業費は、これまでの積立金約二十七億円、同病院に土地を売って得られた金を加え、約四十八億円となる。

・その資金を使って本来の目的施設である区画整理記念・交流会館(仮称)(以下「記念会館」)が敷地の四割弱(約一五〇〇㎡)に建設される(建物床面積は五〇〇〇~六〇〇〇㎡となる)(図3参照)。

↑ 図4参照

・記念会館には「区画整理記念ホール(仮称)(以下文化ホール)が設置される(図4参照)。

・また記念会館には「港区図書館」が面積を大幅に(「旧船員」増やして)移され、その中に区画整理の歴史を学ぶスペースなどが設けられる

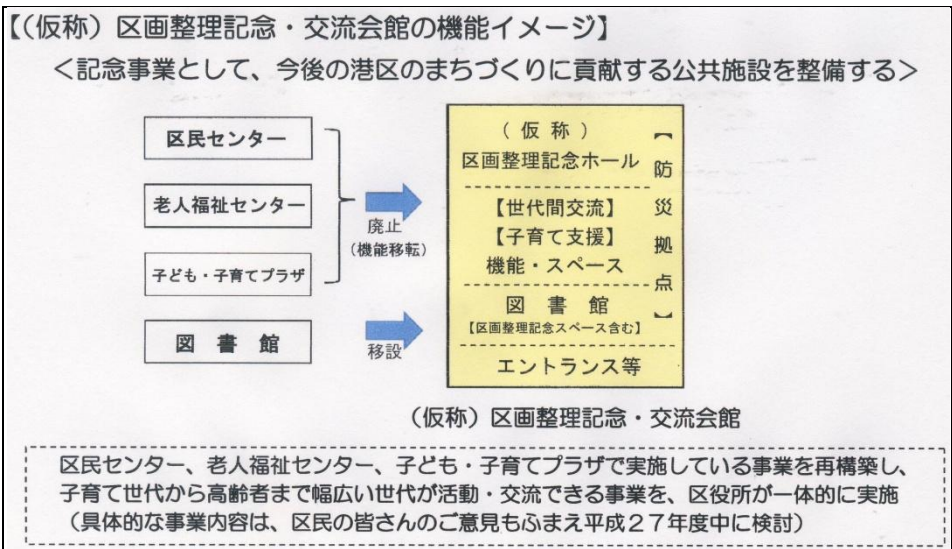
↑ 区画整理記念事業の敷地(磯路一・七)。右手前の空き地に大阪みなと中央病院を移転し、左奥の二つの建物(地下鉄弁天町駅舎と変電所)撤去跡に記念会館を建てる予定とされる



↑ 図4参照

・また記念会館には「港区民センター」「港区老人福祉センター」「港区子ども子育て支援センター」の機能をまとめ持つ「世代間交流子育て支援センター」

ース」が造られ、区役所が一体的に運営すること
共に、そわら二施設は廃止される＝図4参照。



→ 図4 記念・交流会館の機能イメージ

・また同会館にはエントランス(玄関)ホールや小会議室なども造られ、全体として港区の防災拠点ともなる＝図4参照。

・敷地の東側に拠点病院を、西側に記念会館を配置したのは、記念会館と地下鉄駅との接続の便を考え、また同病院のセキュリティ(安全面など)を考えたことによる＝図3参照。

◆ 市役所が考えたのが

・同病院は区内で唯一の救急指定病院・総合病院なので、区外に転出されたら港区の地域医療(災害時医療)に非常に大きな問題が生じる。

・今後、高齢化が進む中、地域の重要な課題である地域包括ケアシステム(高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、介護・医療・予防・生活支援・住まいを一体で提供する仕組み)をつくるためには、区内に拠点となる病院がひとつも必要だ。

・同時に、いま港区民センターや港区老人福祉センターや港区子ども子育てプラザで実施している事業をもっと一度ひき直して、子育て世代から高齢者まで幅広い世代が活動・交流できる事業を、区役所が一体的に運営しよう。

◆ どんなスケジュールで進めるか

・今年一月 ①十七日(十五時～十八時半に港近隣センターで「第一回説明会」を開く②十九日(月)十九時～二十時半に港区民センターで「第二回説明会」を開く③二十一日(水)十九時から「港区区政会議」で意見を聴く④下旬に「大阪市戦略会議」をプレスリリース公開で開き、「計画案」について正式決定する

・今年二月 大阪市議会で話し合った予算が組まれる

・二〇一五年度 ①記念会館の事業内容(主にソフト面)を区役所と区民が一緒に考える②現地の更地化(工事)埋設管移設などを始める③病院の設計を始める④新変電所の設計を始める

・二〇一六年度 ①記念会館の建設に向けて色々な調整(主にハード面)をする②病院の建設工事を始める③新変電所の建設工事を始める

・二〇一七年度 ①記念会館の建設工事を始める②病院がオープンする③旧変電所を撤去して更地にしよう

◆ 市の拍子歌を聞いて

・二〇一七年度 記念会館がオープンする

—以上が大阪市から提示された「計画案」の内容ですが、これについて十二月二十四日の市担当部署である「都市整備局企画部拠点開発事業担当」の平原課長に話をしました。

①また、「計画案」決定に至る最近半年（本紙がこの件で取材に伺った昨年八月以降）の経過（特に回病院との接点のみ）を数行にまとめよう。

昨年の夏前から、回病院より区役所へ、移転にこころを相談があり、話し合いを続けました。

回病院は現在の建物床面積一九〇〇〇㎡がそれ以上を目安に、市岡商業高校跡地なども含めて探しておりましたが、弁天町駅前はこの土地を希望されました。しかし、ここは区画整理記念事業のための用地なので、それこそ致す敷地を手配も確保した上で、残り一五〇〇㎡の上で建物床面積をいかに確保できるかがポイントとなりました。回病院はそれを一四〇〇〇㎡（一〇〇〇㎡を算出）で、経路判断とコンパクト判断されたところのみです。

このコンパクトの事情や要望を示して折衝を重ねた結果、今回の正式申し入れとなりました。

②また、「計画案」を了承した港区区土地区画

区内唯一の救急指定総合病院である「大阪みなと中央病院」(築港二丁目)。老朽化による移転の必要から区画整理記念事業用地への移転の申し入れが港区役所に行なわれたという



整理協議会(十一月十日の様子を教えて下さい。

会には委員十二名中、武智会長以下七名が参加されました。計画案を説明したところ、唐突な感じはするけれど、ええ形で決まった「病

院が港区からなくならなかったのは良かった」「地域包括ケアシステムの考え方に合致する」など、概ね賛成の意向が示されました。

また、後口開かれた、港区の地域振興会連合会・地域活動協議会・社会福祉協議会の各会長が集まる「今回地域会議」では、この計画案を説明しました。

③また、この「計画案」の提示に半年の半年の経過は、それまでの十一年間の区民議論を踏まえたものであろうか？

は。六月の報紙からのインタビュー(七月号掲載)で「十一年間の区民議論も昨年度からの「構想検討調査」を踏まえて、何となく今の年度中に構想案を策定して参りました」「港区の歴史的な区画整理事業を後世に伝えるというところに着眼しながら骨格構想を示し、ポイントを絞った区民議論をお願いする」「構想案がどこから所定の手続きを踏まえ、公開していく」とお答えしたことを果たしたのではなかろうかと感じています。

④また、この「計画案」の内容は、これまでの十数年の区民議論を踏まえたもので、また「港

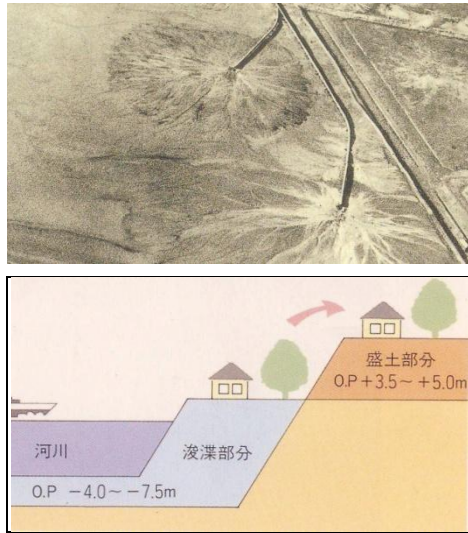
区の歴史的事業を後世「伝える」として主目的「口数増加の計画を打ち出す」。

ねい。その間の長い論議の中では、最初は「演劇ホール」など収益性のある施設について議論が行なわれ、そうした意見を元に「コンパ」も行なわれましたが、経済状況の変化などにより、実現には至りませんでした。

そうした曲折の上で今回、五五〇席（ローバルバック＝客席の後方は高く持ち上げる方式＝「ゆかばい席」）規模の文化ホールはもとより、世代間交流・子育て支援のスペース、区画整理の歴史を学ぶ「コーナー」を併設した図書館、さらには地域医療・災害時医療や地域包括ケアシステムの柱となる機能も併せ持つ事業内容を提示するに至りました。

「これにより、先ほども言いました「港区の歴史的な区画整理事業を後世「伝える」として着眼した「高規格複館」を区民の眼睛に「ゆかばい」がくまいたと計画しているのです。特に図書館の中に区画整理事業の理由を伝える「コーナー」を設けることは、別個「展示施設」を設けるよりも、区民の目に留まりやすいものだと思います。

「全面二坪の盛土が区の大半で実施され、世界史上でも画期的とされる」港区地区復興土地区画整理事業」。写真上はサンドポンプから噴き出される土砂（一九五四年頃）、下図は全面盛土方式のイメージ。いずれも港区役所新庁舎竣工記念誌（一九九八年発行）から



⑥その一方で、今後の計画実現までの工程として、特に区民への計画案決定という工程に対して「余の「拙速」を非難せぬか」との言が区民の間から上がっているが...

これまでの長い滞海から計画案が浮上したところ経過過渡期からなみだが、そのうちな「意見」をめぐりなご思いますが、十一月十日に協議案を

を提示して賛同を得、同月十九日には港区役所ホームページで公表し、その一カ月後の三月中旬には区民説明会や区会議で「意見を聴く」とい「風」、順序立てて進めており、決して「拙速」とは考えておりません。

加えてこの事業のオープン予定時期から逆算した場合、一月には市議会での議論が始まり、三月には予算が確定するといった事情を考えると、この「遅い」の工程は「遅い」。

その上、なご「拙速」か、あご「遅い」だけだけの論議期間が必要かの判断は、市区民の皆さんにお任せしたいと思いますが、市としては、ぜひこの工程の中で、美のある議論をお願うたいと願っています。



以上、港区役所ホームページや関係者の話また市の担当部署やインタビューから、区画整理記念事業の計画案の概要やその狙いがつかめました。これに対して港区民は、これからどのように対応すべきでしょうか。

二十一年頃の滞海「二区」の区切りが打たれたこと、また「今年度中に構想案を示す」こと市

の担当部署の約束が果たされたことは、戦後の焼け野原から水害に強い街を造り上げた港区の先人の苦勞に報い、歴史的な港区の区画整理事業の意義と誇りを次世代へ継承する道が開けたところであらう。一歩前進と捉えるべきであらう。その上で、この問題についてこれから区民が考えたり行動したりする上でポイントになると思われる内容を次に示します。

日程 一月中に案の説明から案の決定まで進めるのは、余りに拙速かつ非民主的ではないか、オープン時期をずらしてもいいという区民で骨格の論議をするところを優先すべきではないか。

経過 昨夏以降の経過は二十一年間の区民論議を踏まえたものが、大阪みなと中央病院との接触が、区民を代表する協議会にも伏せられ水面下で進められたのは、区民不在といえないが。

内容 全体として港区の歴史的事業を後世に伝えるという主目的を致した内容になっっているか。世代間交流・子育て支援・防災拠点・地域医療拠点・災害時医療拠点・地域包括ケアシステム・文化ホール・区民展示・小会議室・図書館など、計画案に示された機能の中で、無駄なもの、

↑「港地区復興土地区画整理事業」の工事風景。

写真上は八幡屋付近の市電軌道の嵩上げの様子（一九五七年頃）山本安孝氏提供。同下は盛土後の路面高に合わせた下水道マンホールの築造風景。港区役所新庁舎竣工記念誌から



また不足なものはないか。区画整理の歴史を後世に伝えるためのスペースは図書館に併設で良いが、独自に設けるのが良いが。病院と記念会館の面積や配置の割の振りは適切か。

費用 大阪みなと中央病院が買い取る敷地（約一〇八五㎡）の代金推定九千十億円は適切か。事業費四十八億円に市から補助はないのか、全て建設費にすべきなのか、運営費をいへうらが

残しておくのか。運営の中で得られる収益を一

児使用料、入場料などをどう扱うべきか。
運営 病院は大阪みなと中央病院が運営するとしても、記念会館を区役所が運営するのは適切か、他の方法（区民団体など）による運営、あるいは分割運営は考えられないか。

論議 来年度一年間で交流会館の事業内容を、区民の意見を踏まえて区役所が検討・決定するというが、検討期間として適切か。検討のための論議はどんな形・頻度で行なわれるべきか、その過程は区民にどう周知されるべきか。

関連施設 大阪みなと中央病院が築港から移転することを築港住民はどう受け止めているか。区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザの廃止は区民のためになるか、市のコスト削減が主目的ではないか、運営者や利用者は納得するか、施設は残すべきではないか。

——以上を目安にした、肚を割っての市民協働の論議が期待されます。とりあえずは今月十七日（十七時）から港近隣センターで、十九日（月）十九時から港区民センターで行なわれる「説明会」が、その最初の機会となるであろう。

おどろくすか!

やまだ ひろゆき
山田 博之さん（七三歳 築港）



新病院建設の声あげよう

築港にも災害時拠点病院が必要だ

戦災から港区を復興させ、水害に強い街の土台を造った「港地区復興と土地区画整理事業」の足跡を記念施設として残すという計画が、このほど大阪市より計画(案)が示された。このうち

については、既に「報みま」を通じ承知かと思えます。が、その中で一点、地域住民の目にも見えない問題があることを、この欄をお借りして、港新聞読者の皆さんに知って頂きたいと思い、筆を執りました。

◆「後継病院」の不安

さて、田端・港区は、昨年十一月十九日に開かれた地域振興会築港連合町会の会合に出席し、港区役所・大阪市都市整備局が立案した「弁天町駅前土地区画整理記念事業計画(案)」の内容を説明しました。そのポイントは、①大阪市は弁天町駅前の都市整備局の用地を大阪みなと中央病院(旧・大阪船員保険病院)に売却する②大阪みなと中央病院は同地に新病院を建設し、二〇一九年度に開業する③大阪みなと中央病院は現在の用地を大阪市に売却し、大阪市は住宅用地として使用する、というものです。

が、この説明会の中で田端区長は、後継病院の誘致については言及しませんでした。そのため町会長ら出席者の間から、先々を心配する声が上がったと伝え聞いています。

◆「百議会」の記述をせよ

また、当口配布されたプリントには、今年度中のスケジュールとして、①一月十七日に港近隣センターで、同十九日に港区民センターで説明会を実施する②一月中旬に区政会議で意見聴取する③一月下旬に計画(案)を決定する、と明記しながら、「百議会」(同計画(案)を提案する)との記述はありません。そのため出席者の中にはこの説明会で「決まり」と思った人がおられたのではないのでしょうか。姑息な感じがします。

◆築港から拠点病院をなくす

この中で私たち築港住民が一番危惧するのは、もし「百議会」で、後継病院の誘致を住民・市民に確認しないままの計画(案)がまかり通れば、四年後、築港から総合病院・救急指定病院(災害時拠点病院)の二つの機能が消えて無くなる、ということなのです。

改めて言ってもありませんが、築港は大阪の海の玄関です。大阪税関・大阪検疫所・大阪海上保安部などの国の重要な機関や港湾関係の事業所など、港区の他地域にはない施設が集中しています。加えて年間「百数十万人」が訪れる海遊館があり、天保山岸壁には外国の観光客船

が停泊します。さらに高齢化も著しい地域です。

痾気やケガは待ってくれません。弁天町へ行かなければ外科医が居ないなんてことになれば、住民・市民のかけがえのない命が脅かされます。また、天下に恥をさらすこととなります。

◆ 存続を求める書も届いたが

振り返れば一昨年初、船倉保険病院が市岡商業高の跡地(弁天)へ移転するとの噂が飛び交いました。そこで私たち「築港エリアに総合病院の存続を求める会」の仲間は約五百筆の署名を別府院長に届けました。昨年七月一日にはそのうちの五人が同院長に面会し、「二〇一五年度中に耐震診断を実施します」との返事ももらいました。その直後からでしょうか、回病院を運営する独立行政法人地域医療機能推進機構(本部は東京から区役所に対し、「弁天町に移転できない場合は市外への転出も検討せざるを得ない」との強い申し入れがあり、今回の計画(案)にしがかりました。

◆ 巨大地震で寸断されたら…

弁天町駅前に新病院がオープンするとは結構なことです。しかし同時に、天保山運河の西

側にも総合病院・救急指定病院・災害時拠点病院が絶対に必要です。巨大地震が発生し、幹線道路と天保山運河の橋が損傷したら、弁天町から築港へお医者さんや看護師さんが来てくれる保証はないからです。

◆ 適した土地も建物もある

幸い築港地域には、総合病院を建設するのに適した建物と土地があります。一九九六年に十二億円を投じて築港二丁目に建設された元港灣同職員公舎です。八階建て五十六室の耐震ビル(一階は「ロビー」を改修すれば、築港地域の医療ニーズに応えるだけの病院施設と老健施設を確保できるのではないのでしょうか。

ぜひ田端区長が先頭に立って、築港地域に総合病院の進出を検討している企業グループに働きかけ、四年以内に大阪みなと中央病院の穴を埋めていただきたい。そして築港十人の住民地域で働く人々、多くの観光客の心の不安を解消していただきたいと強く願っています。

要は田端区長と橋本市長の腹合いです。病院誘致が成功することを心から期待しています。

(築港エリアに総合病院の存続を求める会代表)

啓蒙的・実益的な情報

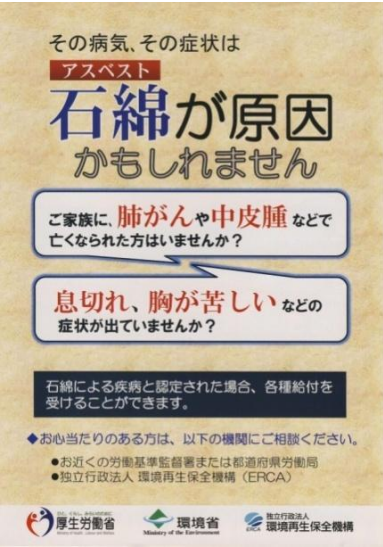
あれこれガイド

● ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心によさしい豆腐・豆乳・書豆(あわちま)豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧一六三三、☎六五七二・七五一一)。

● ムチ打ち(音・腰)無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。一月二十五日(日)十時十八時に行政書士のみら事務所(築港二七・一六〇〇)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」)事故後、早めの相談が良い結果につながります(同事務所・野村光甫(みつひさ)さん)。Eメール info@jikkoo110-nnonon.com

ra.com TEL 六五七六・六〇七八、FAX 六五七六・六〇七九。

●石綿(アスベスト)パンフ 肺がん、中皮腫などの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それによる死亡が「アスベスト(石綿)によるもの」と認められたら、色々な給付を受けようができる。このパンフレット＝写真＝は、そんな人たちや家族のために、①石綿による病気がばたいたものがあるか②石綿による病気が分かった場合の補償や救済の制度にはどうなるかがあるか③その場合どうして問い合わせたらよいかなどを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再生保全機構(ERCA)がまとめてたもの。タイトルは『その病気 その症状は石



綿(アスベスト)が原因かもしれません。」「コンパクトで分かりやすい」「区民六十代男性」と好評。港区で暮らすか働いている人なら港区役所(市岡一・一五・一五)三階の港区保健福祉センターのチラシスタンドに設置してあるものを無料でもらえる。

●大阪商工団体連合会「暮らしを守る制度の手引き(大阪市内版)」 「市民税が非課税になると保険料や自己負担が軽くなる」「国保料や医療費の支払いで困った時は「介護保険料や利用料が非課税世帯は安くなる」「国民年金の保険料も申請で安くなる」「子育て世代やひとり親世帯の負担軽減」「生活困難なときは生活保護を受けよう」「滞納処分(差し押さ)から生活を守ろう」



などの項目で、市民生活に役立つ制度や対処法を紹介するパンフレット＝写真。直接は市内の中小零細業者向けだが、一般市区民も希望すればもらえる。問い合わせは港民主商工会(市岡二・一〇・一六、市六五七・一七八七)まで。

●障害年金もれの心当たりある人は相談を 障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年金を受けられないのに請求手続きをしていない人が相当数(身体障害者では〇・四割＝二十万人程度)にのぼることが厚生労働省の調査で判った(二〇一三年七月)。原因の大半は「障害者手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にずれがあること。このため、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分では受けられない」と思っている場合などは、申請しなければ、いつまでたっても支給されないことになる。心当たりのある人は市岡年金事務所(磯路三二・一五・一七、市六五七・一五〇三)まで。

あさやけ

「起つて国民、酒屋、米屋、小作人、地主…
 商業家、工業家、公等は国民に非ずや。…時世
 と呼ぶる無形の汽車は公等に乗せて疾行しつ
 つ、日々月々新たななる光景中に進入せり。悲し
 きかな、公等ははこの汽車に後向きに乗つて…知
 らず知らず新たななる光景中に入れり。しかして
 公等の眼睛は常に後方に注ぎて…前方を見る
 ことなし。汽車はつよつよ進みて…公等の精神
 はつよつよ時に後れつゝある」▼これは、土佐
 に生まれ、明治維新のあとフランスに留学して
 西欧民主主義を掴み、自由民権の理論家として
 活躍した中江兆民（一八四七-一九〇二）の著
 『一年有半』からの抜粋です。「つよつよと言
 ひなぬ」「つよつよと言ひなぬ」は、確かに
 我々国民は、つよつよの世界の人々たる、つよつ
 時代も肝心なことは後で知らされ、「つよつよ
 ことやつたんか」と言ひつゝいた頃には次の事態が
 進んでおろし、その最中にもやはり事の本质は知
 らされないうつ悲境を嫌うつほど味わ

つてきました。古くは一度の世界大戦。ちよい
 古はベトナム戦争にイラク戦争…折しも日
 本では「原爆は安全」「米軍は日本を守る」「大正
 業が儲かれは庶民も潤う」などの神話が進行
 中で、先の総選挙ではそれをベースに「アベノ
 ミクス」「軽減税率」等々、耳触りのよいシナリ
 才を声高に叫んだ政党がまたも多数を取り、一
 億人超が乗りこつ超巨大列車『平成日本』は
 一段と速度を上げました。国民の目にはまた新
 たな光景が広がるように。ただし消費税
 などと乗車賃を払ったにも拘らず、百年も前
 に兆民さんが指摘したように、座席はみな後
 る向き。目にするのは、田舎に物価高、非正規
 労働者に「トラック企業、米軍基地に原発再稼働
 …」。一体どう行へんやぞ…。誰もが不安を
 抱えたまま、列車はつよつよ速度を上げてい
 ます▼「アベノミクス」駅を通過し「軽減税率駅
 を通過したあと、果たして「平和で心豊かな日
 本」いつ終着駅に辿り着けるのか、それとも
 かして行き着いた「戦争」といつ駅へ再び向かっ
 てくるのか。運転手(田中元児)も車掌(公明党
 スペシャール)も、それに背後で運行表を仕切る管制官(米田

巨大資本)でさえも、案外分かっていないのかも
 しれません▼聖書には「地の人の道はその人に
 属していない…自分の歩みを導く」といへ、そ
 の人に属してゐるのではありません(エリヤヤ
 書とあります。つまり、個々の人間も、人類全
 体も、創造主たる神の存在や意思を無視してい
 ること起因する不完全な「利己主義」や「拝金主
 義、傲慢」や「不寛容の精神」に「たつて、自ら
 が歩く道筋を定めなければならない」と断定してゐる
 のです。聖書が「神の言葉」である「同じ同意」の
 かたつかは別として、いままでの歴史を見る限
 り、それは「二〇世紀」だつて「21世紀」のもの
 ではないとしようか▼文明発生から数千年、奴
 隷制・封建制・資本主義・社会主義とあらゆる
 政治形態を試みてなお混沌にある人類は、これ
 から先、本当に自分で自分を制御できるのか
 自問せねばならぬところへ来てゐるように思わ
 れます。新しい年、誰もが行き先を分かつた、
 唯物論と進化論のレールを暴進する列車をい
 ったん降り、外の空気を呼吸せよの「つよつよ」に触れ
 てみれば、兆民さんも出せなかつた、意外と
 良い答えが見つかるかもかもしれません。

生活破壊に倍返しだ！

南市岡で「団結もちつき力強く



「苦しい時こそ餅のように粘り強く闘おう！」
と威勢よく餅をつき続ける青・壮年労働者ら
〓十二月十三日、南市岡の田中機械構内で

餅の「ち」に粘り強く闘おう」「労働者と地

域住民が力を合わせよう」「争議組合を応援しよう」と毎年末に行なわれてきた伝統行事「団結もちつき大会」が十二月十三日(土)、南市岡三丁目の「田中機械」で催されました。港区を中心とする中小労組・労働者の集まりである「港合同」と同もちつき実行委員会が主催、平和と福祉を掲げる特定非営利活動法人「NPOみなと」が共催。四十四回目。

◆ 地域で労働者一体で

予約していた地域の人々が前日から餅米を水に浸けて準備し、午前中に持ち寄り、それらを労働組合が無料で蒸し、搗き、丸めて手渡ししました。「ほいー」「ほいー」「よっしゃー」など威勢の良い掛け声を発しながら石臼に向かって杵を振り下ろす青・壮年労働者。ストーブの上の蒸籠の番をしながらその様子を頼もしげに見守る高齢労働者。搗き上がった餅を台の上で手早く切り、丸めながら談笑する女性労働者。あべかわ安倍川餅(黄粉餅)や雑煮などをふるまわれて喜ぶ地元の住民。厳しい寒気の中、労働者と地域一体の和やかな雰囲気か印象的でした。

◆ 「組合の原点を闘おう」中村委員長

午後一時からは労働者集会が開かれ、司会の港合同・沢田尚さんが「言いたいことが山ほどある中、新年の闘争態勢を確立するため、この大会を催した」と開会宣言。これを受けて港合同・中村吉政委員長があいさつに立ちました。

この中で同委員長は、翌日に投票が行なわれる総選挙に触れながら、①原発再稼働や消費増税など安全・平和・生活が次々と破壊される中、国民は一体何を楽しみに生き、働き、活動すれ



「生活や平和が破壊され、世の中を根本的に変えなければどうしようもない段階に来ている。組合運動の原点を守り、共に前進していく」と呼びかける港合同・中村吉政委員長

はよいのかという段階。つまり世の中を根本的に変えなければいけない。しかもなご市にきてくると、幸い港口関連では、これまで闘争の積み重ねの結果として、昨年に続いて大きな争議のない年末となった③しかし市職員への入れ墨調査など大阪市の人権侵害や団結権破壊との闘争は続いており、その中で諸悪の元凶である橋下市長を追って、「団結権をとり簡単には破壊すべきだ」というを天下に知らしめる必要がある」と現在の情勢や課題を提起。その上で、労働組合にも押し寄せている高齢化問題に触れ、「私も今の一人だが、皆の力を合わせて助け合おう。助かる限り、活動が苦にならない」と話した。それからこの組合運動の原点を守り、共に前進しようという呼びかけをした。

このあと労働組合や平和・民主団体の代表りが次々と連帯のあいさつに立ちました。この中で、安倍政治や橋下市政への懸念を語り、その一方で「米軍の新基地を認めない沖縄知事の誕生」など人民闘争発展への歓迎と期待が共通して語られました。

◆「消費税をなくしよう」青年労働者

←黙々と蒸籠の番をする高齢労働者①と、おしゃべりしながら餅を丸める女性労働者②



参加者のうち、団結鉢巻まで法被姿で、元気な掛け声と共に臼の餅をこねていた尾崎剛さん(三六)＝港口同①＝金属支部＝は、福崎の①＝金属㈱(電線や電柱に付属する金物の製造・販売を事業とする誦メーカー)で勤続7年、職場では生産現場を担っている。

「この大会には労働組合員として毎年参加し、そのご正気をもらっています。組合の力で賞上げは毎年かちやっています。妻や子供(小学六年男児と小学二年女児)を抱えて生活は厳しく、消費税はもちろんだ、消費税(そのものをなくしよう)はこい思っています。また、自分は正社員ですが、不安定な身分の非正規労働者

働者を増やす政治もやめてほしいです。この他にも組合で色々(社会の問題を)勉強していきましょう」と話していました。

◆「もちつき続けよう」元労働者

また午前中に餅をたくさん食べて満足そうに帰っていった西村昇さん(八〇)＝弁天在住②と木村豊治さん(七〇)＝三先在住②は一人とも官民の元労働者。「この(田中機械)の力ラオケや寄席などの催しにはこいも参加しています」「若い頃は餅を三斗も四斗もついた。餅つきは費用がええし、懐かしい。これからもちつき続けよう」と話していました。

働く仲間の相談所
 無料
 倒産、解雇、賃金不払い、条件切下げなど何でも困ってませんか?
 港合同 (南市岡3-6-26) ☎6583-4858

被災地農民を支援します。
反原発の声をあげよう!
 ご協力下さる方はご連絡下さい
三里塚産直野菜の会
 磯路2-3-9(三社神社そば) TEL.6572-0130

みなとサロン

一般新聞を叱る！

池島・勝部 泰臣 八十一歳

記事の扱いが余りにも小々過りて気がつかない人が殆んどだ。十一月二十四日付朝刊。福島原発事故による放射線の影響を調べる検査で「甲状腺がんの疑いがある」と診断された子が四人出た。二十九年前のあのチエルンブリー事故。四、五年後に子どもの甲状腺がんが急増した事実を知って、私たちは「フクシマ後」を気にかけて続けてきたのではなかったか。

先進科学が生んだ「核」という悪魔には一般人には未知の部分があるから、廃棄物の処理にも場所提供が拒まれてきているのが現実。なのに頑なに隠し隠ししてこころよくに思えてならない。何だ、あの小さい取り扱いは。たまたま大阪市中央図書館(西区)へ本の返却で立ち寄って四大紙を見たり、毎日と産経だけが社会面横の下段の目立たない所に一段見出

して小々い。朝刊、読者は記事にやそついな
い。それで国民の公器たる役目を果たしている
といえるのか！ 事実は事実として、もっと大
きく取り上げて読者に提供するのが新聞の任務
だろう。それでも何が、またストップがかつ
たのか。

選挙中「トクくなった菅原文太さん」「戦争の
ない国」「核廃絶」「米軍基地撤去」を求め、原
発再稼働反対運動に参加したり、沖縄知事選で
は米軍普天間基地の辺野古への移設に反対する
翁長候補の応援に駆け付けたり、役者を辞めて
からも信念を貫き通した。そんな晩年の活動が
略歴から削除された。「ある政党の選挙妨害にな
るので表に出さない」と決めた一部大新聞・テ
レビ。君たちはジャーナリズム精神の欠けた矢
格者だ。

あやうい三年すねば、そやもたちの甲状腺が
んはますます増えるだろう。微かに漏れ伝え聞い
たチエルンブリー事故後の事実が教えてくれて
いる。臭いものに蓋をしたつもりだろうが、そ
ういづつを「破鍋に綴蓋」といつんだよ。

.....

同じ区役所でこの違いは何？

区内・六十代女性

親族の生活保護の件で三つの区役所へ出向き
ましたが、同じ区役所でありながら対応が余り
に違いに驚き、思わず筆を執りました。

まず、知的障害があり放浪癖のある叔父の件
で、住民票のあるT区役所へ行きました。分か
りにくい閉鎖的な窓口であった上に、対応した
職員がどうしても高圧的で、事情を聴き取るのもそ
「ムムム」ハードルの高さはかりを強調された
揚げ句「本人が(実際)に活動している場所の区
役所へ行きなさい」と突き放すように言われま
した。げんせほんつ とほこのことが一と怒
りが込み上げるのを抑えられませんでした。

それで、次に西成区役所へ行ったのですが、
「J」ではまず、余りに来場者が多いこと、そし
て余りにオープンな雰囲気も驚かしました。窓口
の職員「今日何か特別な日ですか」と尋ね
ると、「いいもんなんですからしますましたもの。
待ち時間は確かに長かったです、丁寧な事
情を聴き取った上で、「次はいつしたらよいか」
を分りやすく示して下さいます。同じ区は生活

行委員の戸惑いなど、今後の改善を期待した提言も入っており、このように、記事に「一層の厚み」を加えています。

毎句感じているのですが、詳細な記録にとどまらず、おもしろポイントが盛り込まれていて記事内容が、改めて感心した次第です。今後に期待しています。

下水処理場の働きが理解できました

（井大・三十代女性）

友だちに教えられてネットで見えています。十一年ほどは「暑くして支える下水道 好評だった市岡処理場』』一般公開』』二十頁が勉強になりました。この行事には私も娘を連れて初めて参加し、汚れた水が色々な処理をされて綺麗になる仕組みを見学したのですが、この記事でおもしろいポイントがわかりました。田中さん、この処理場には大雨の時に町が浸水しないように重要な役割ももっている。また汚れた水を微生物が綺麗にしていく仕組みが、一層おもしろい理解になりました。来年はこの記事を持って見学に行きたいと思います。詳しく記事に感謝

っています。

小さな命救って喜び感謝

（田中・六十一歳女性）

十一頁の『わんち伝』(五十六頁)「怪我をして瀕死の状態だった子猫＝写真上＝の里親になって」という呼びかけを掲載してもらった者です。おかげ様で子猫は、茨木市の若夫婦のもとで元気で過ごしています＝写真下。小さな命ですが、無事もらわれるまでには随分と色々な方のお世話になりました。紙上をお借りして、改めてお礼を申し上げます。

また、貴紙には築港の「町猫倶楽部」や大阪市の「猫サポーター」の活動がよく載せられています。その方たちが常に口をわけてこの世に生まれた以上は、人でも動物でも、



女命にも幸せに生きる権利がある。それが実現できる社会（共生社会）をめざす」という呼びかけの重さを、今回の経験を通じて改めて感じるようになった。

杉原さん「戦争体験」に驚愕

（磯路・障地 照子）

杉原麻子さんの「平和のため 戦争体験 語り継ぐ」(十一頁四十頁)を読みました。七十年前に、日本に近い満州で、しかも戦争が終わった後で、こんな残酷な体験を実際にさせているわけで、ただただ驚くばかりです。疫病や略奪など、本当に怖い思いをされたのが分かります。そんな中、シベリヤ送りの列車から決死の脱出をされた「主人と再会できた上」、酷寒の病院で無事生まれた赤ちゃん。これほど嬉しかったらいいと思います。写真の杉原さんとは、そんな体験をされたとは思えないくらい、とても穏やかな笑顔です。「わがわが毎日おはね」でお話してください。貴紙のお話、最後まで読んでお楽しみました。

「米軍基地」警界に身をかきこまる

三先・六十代 商店主

知人から「まだ港新聞さん頑張ったはるな」と知らされ、ネットで読みました。私も以前小学校行事などでお世話になったものの、全声配布されなくなつて随分たった二〇一二年七月頃からです。＝編集部)ので、やめられたばかり思つていました(失礼しました)。

その後も記事の傾向は変わらず、よく地域の実情を捉え、むしろそれぞれの記事が詳細になつたと感じました。十一月頃では八幡屋の永砂義明さんの提言「日後半島に米軍基地が狙う者は狙われる 子孫のために反対を」(八月が目に留まりました)。新聞はよく読むのですが、北朝鮮に向けた高性能レーダーの設置計画は全く知りませんでした。「集団的自衛権が行使されたら総攻撃の最前線基地になる」との永砂さんの警告も、「本島」も、子孫のため「こんな物騒な物を許してはならない」と身の引き締まる思いでした。

「これから読ませてもらいます。寒中の取材、大変ですが、頑張つて下さる!」

マスコミが取り上げない事件こそ

(中) 四十年代 会社員

「無実の運動家の解放を!」獄中四十年星野文昭さん支援集会(十一月十八日を興味深く読みました。全く知らない過去の事件で、支援運動が行なわれていなくても、もちろん初めて知りました。記事を読んだ限りでは、警察・検察の不当性は明らかで、そのため、青年だった人が今や老年に差し掛かっているというのは、余りにも理不尽です。こんなことが許されているのかと怒りがこみ上げます。マスコミが無視する、こいつの動きを取り上げると



→尾崎妃努子さん(池島)からの絵手紙

も、小さな地域新聞の役割かと思えます。今後にも期待しています。

もていりの喜び伝わってきた

港情・六十代 自営業

「入魂の特技が大集合」老人福祉センター作品展(十一月四十一日に読み入りました。取材とほいそ「よければだけの作品を観察されたなあ」とます感じ。その上で、二二二の作品の描写から、それぞれの作者のものごころに喜ばれたいや喜びが伝わつてきて、温かな気持ちになりました。

どんな物でも金さえ出せばネットなどで簡単に手に入る時代ですが、やはり人間には自分の手と頭と心を使って自分だけの物を作り上げたという欲求があるのだと、改めて思った次第です。そして、高齢者のために二二二の場を毎年設けられる港区老人福祉センターさんの取り組みも、また賞賛なもので思いました。地味ですが、二二二の海老の記事を読ませてもらいました。

健康・友愛・奉仕を推進

港区老連が「老人クラブ大会」



→「健康・友愛・奉仕の三大運動をいっそう推進しよう」と確認し合った「港区老人クラブ大会」は十二月十三日、港区民センター

健康・友愛・奉仕の運動をさらに進めていこう。港区老人クラブ連合会（仮老連、原田壽会長）主催の「第二回港区老人クラブ大会」が十二月十三日（土）、港区民センターで開催され、会員が五百人以上が参加しました。

◆「完全復興まで支援」と原田会長

大会では山口薫総務部長の司会のもと、藤家順副会長の「クラブ大会宣言」に続いて原田会長が主催者あいさつに立ちました。

この中で原会長は、一年間の区老連活動を回顧。特に「防災」をキーワードに三回目の開催となった十月の「第三回さんま祭り」に触れ、岩手県大船渡市から過半数最多の千五百尾の秋刀魚を仕入れたこと、前回に続いて中学生ボランティアの参加があったこと、大阪市二十四区の区老連会長から激励をもらったこと、十一月十八日に大船渡市を訪れて売上から見舞金を手渡したことで、大船渡市から後日感謝の手紙が届いたこと、現地はまだ仮設住宅も多く復興には程遠いことなどを報告。「完全復興まで支援活動を続けていきたい」と決意を述べると共に、「これからも生きがいのある地域社会をめざし、『健康

「主催者あいさつで「第三回さんま祭り」など一年間の活動を報告する原田壽会長



『友愛』『奉仕』の三大運動を進めていきましよう」と呼びかけました。

◆「さんま祭りの素晴らしさ」原会長

また来賓の田端尚伸・港区長はやはり「さんま祭り」に触れ、「被災地支援を果たしながら、自分たちもおいしく食べて楽しみ、交流し、その中で次世代教育も行なっていく、熱と智に溢れた素晴らしい活動」と称賛。「健康・友愛・奉仕を掲げた、こうした老人クラブの活動は地域コミュニティの形成や街の活性化に大きな役割を果たす。私たちも手を携えて活動していきたい」と区役所としての姿勢を語りました。

◆「豊かな地域に貢献を」と大老連

同じく来賓の佐藤暢哉のぶや・大阪市老人クラブ連合会副理事長は「昭和二十二年四月発足以来の活動で二十三年クラブ・一五八〇名の組織に発展された」とこの間の区老連の努力を讃えた上で、「かつてない高齢化社会の中、仲間へのり・生きがいがびり・健康へのりの活動はますますその意義を高めている。これからもうこうした活動を通じて豊かな地域へのり貢献してほしい」と期待を述べました。

◆「自立社会へ施策」と大阪市

同じく来賓の内村正たかし・大阪市いきがい課長は「レクリエーション・子供見守り・友愛訪問などの多彩な活動は地域社会へのり大きな役割を果たしている」と区老連の活動に敬意を表した上で、「大阪市も、地域包括ケアの推進を誰もが自立した生活ができる社会へ施策を進めていきたいと思います」と支援の姿勢を表明しました。

◆「健やかな人生を」と西田謙

同じく来賓の西徳人のりひ・市会議員(港区選出)は「このま祭りはお汗を流して被災地を支援する素晴らしい取り組み」と讃えた上で、「港区も

← 結成十五年表彰を受け「お礼の言葉」を述べる

A・P・M 濤クラブ・中野会長①と、ピアノカで『王将』などを演奏をする区老連女性部②



数々の災害を乗り越え、強くなってきた。こうした活動が自助・共助の質を高め、地域をさらに強くする。これからも励まし合いながら活動を積み重ね、健やかな人生を送られるようにと全員を激励しました。

◆「クラブ結成十五年を表彰」

一年間の区老連活動の先頭に立った役員紹介などのあと、A・P・M 濤クラブが結成十五年で表彰され、会長の中野憲雄のりおさんが代表して原田会長から賞状と記念品を受け取りました。中野さんは「お礼の言葉」に立ち、周囲の長年の協力・支援に感謝を表明するや共々、今後とも区老

連活動について邁進まいしんすることを誓いました。

◆「女性部がピアノ合奏」

最後に区老連女性部(辻谷隆子部長がピアノカで『王将』『君恋し』『昂』『更にアンコー』に代えて『湯の町エリジ』を合奏。懐かしく美しい旋律に参加者から唱和が起りました。会場には「戦中戦後の苦難を乗り越えた経緯を生かして地域社会に一層貢献しよう」という熱気が溢れていました。

なお、「この式典(第一部)終了後、第一部として年末恒例の「カラオケ大会」が催されました。二十八頁の「記事」

子や孫に自分の人生をのこそう!

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

島根県から上阪し、金属系企業で働きながら労働運動にも力を注ぎました。全国的な運動退潮の中、10数年前に第一線を退きましたが、この間の経験と教訓がいつの日か運動の再興に役立てばとの思いから港新聞に相談し、冊子にしてもらいました。(70代男性)

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

苦難の中でこそ笑いを

子供喜劇 震災と弁天ふ頭を題材に



「子どもOH-笑い塾」が阪神大震災と弁天ふ頭を題材に作り上げた『さよなら弁天ふ頭』お船の中で『いい湯だな』 11月27日

強烈ギャグやズッコケの連発に吉本新喜劇も真つ青。『お笑い特訓』を受けた子供たちが11月27日(土)、「苦難の中でも笑いを」をテーマに、阪神淡路大震災時の港区弁天ふ頭を題材した喜劇を演じ、会場の弁天町ORC200生涯学習センター講堂を爆笑と感動で包みました。

大阪市出身の放送作家・砂川一茂さん(五三)が「人を笑わせ、自分も元気に」喜劇はチームワークと「コミュニケーションやで」と11月の休日を利用して「子どもOH-笑い塾」を開講。

小・中学生ら十数人が数回の稽古で積み上げた成果を披露したのも。

★臨時ホテル「弁天丸」の船内...

上演されたのは、阪神大震災直後の港区・弁天ふ頭を舞台にした『さよなら弁天ふ頭』お船の中で『いい湯だな』。当時の弁天ふ頭に被災者の宿泊所として停泊した客船「くるしま丸」が、ライフライン断絶の中、被災者に入浴などの喜びを提供したという実話がベース。

——一九九五年一月十七日に発生した阪神淡路大震災。弁天ふ頭も大きな被害を受けた。そ

「吉本新喜劇顔負けの「集団突っ込み」や「集団ズッコケ」(Ⓧ)が随所で炸裂した！」



こへ、住む家を失った神戸の人たちの臨時ホテルとなった大型客船「弁天丸」が着岸する。各家族にそれぞれ「等客室が割り当てられ、さっそく大浴場へ。『いい湯だな』「最高」です。ところが「財布がなくなつた」と大騒動が。弁天警察の警官「一人も捜査に乗り込み「お前やぞ」「すみません」なんでやねん」。結局、財布は本人の服に見つかり一件落着。でもギョースした雰囲気が残つた。そこで、そんな空気を吹き飛ばそうと船内で大演芸会をやることに。マジックに小話、カンナムスタイルにあや取り、中国ソングに手話ソング、妖怪ウォッチに猿の物真似…。和やかな船内生活が続いたが、やがて三月、別

れの時が。『蛍の光』が流れる中、紙テープの両端を互いに握りしめながら「船長、お世話になりました」「おなになら。しかしギリシヤに向かったはずの船はなぜか……。」「え、ここは弁天の頭？ そんなアホな」「まあええやん船長、一緒にこのまち盛り上げよう」「やな」。被ぶ父者も船長も警官も、皆、声を合わせて歌い踊った。「世界中の 希望のせて この地球は まわっている いま未来の 扉を開けるとき 悲しみや 苦しみが いつの日か 喜びに変わるだろー」。ぶ頭の翌に『「グループ」の大合唱は、いつまでもいつまでも続くのだった――。

★「笑いを力」とのメッセージ

ちょっとしたサスペンス風の筋書きにナンセンスギャグや集団ブツブツをばり、お笑いの要素をふんだんに盛り込んだ展開。その中に「苦難の中でこそ笑いを力に乗り越えていく」とのメッセージを読み取るのができました。子供たちがきき出したように数々のギャグの中で、客席割り振りの際の「あんたは船を出て公園のすべり台の下で寝てたさう」「え、すべり台の下で〜」「冗談しやも」「ああ良かった

←一人ひとりが個性溢れる得意芸を披露した「演芸大会」シーンには客席から温かな声援が



「すべり台の上ですわ」「……」「取り調べの際の「なんか異常ありませんか」と『か』を付けたかい」、警官が捜査で船に乗り込んだ際の「ワシらも長いこと風呂入ってないや」「どっこい入って下さい」「ほな入らしてもらって、赤いタオルを肩にびら下げの」「準備するやろー」、演芸大会開催が決まった際の「よっしゃ〜入賞したぞ〜」「……」「ななや（張り切っているのは 俺だけか…イヤ〜ン）」などのやり取りが大爆笑を呼んでいます。また、子供が大人役を、大人が子供役を演じる際のきこちなくも可愛い仕草、次々と演芸が

披露される際の溢れんばかりの個性の豊かさも、客席の温かな声援と笑いを誘っていました。

★「お笑い大好き」田演の女子

終演後、出演者に感想を訊きました。

「地元港区の母親B」役を演じた「こっちゃん」「こっちゃん海（かなうみ）のさん（蒲生四丁目の大和屋小学校三年生）は「いっしょにお笑い劇の出演は3回目です。今日はお父さんと お母さんと お姉さんが観に来てくれました。前からお笑いが大好きで、吉本新喜劇もよく観ていて、自分も出てみたいーと思ったのがきっかけです。台詞や動きを覚えるのは大変ですが、皆と一緒にやるのが楽しいです。続ける中で、特に自分が変わったとは思いませんが、これからも楽しく続けていきたいです。この経験を生かして、将来は服のデザイナーになりたいと思っています。今日の舞台衣装はお母さんと一緒に考えました」と話っていました。

★「皆で作る田演の味」を味わえる「父母

また「弁天丸の船長」を演じた「ワッチー」「阿部五郎（あべごろう）君（奈良県北高城郡王寺町立王寺小学校五年生）の父母である母中さん・み

かみさん夫妻は「船長役は『カマちゃん』（井天
小学校五年生の鎌田泰輔君）がやる予定でした
が、インフルエンザで出られなくなったため、
急ぎよ回ってきました。どひなぬいとかと心配

しましたが、落ち着いて演じてくれ、ホッと
しました。よへへ緊張したと思います。出演は四回
目くらいですが、最初、自分から『楽しんで
ください』と希望しました。とこののは、ま
まじで演劇が大好きで、『八幡亭空念仏』とこの
共演を兼ねていてよへへいごうが、もっての
幅をひけたら』『舞石庵』をひけたら』と喜んで
たことなんです。この頃の小学校では学芸会がな
い、皆の前で自分の芸を発表したり、皆一
の舞台をひいて出たらみんなの喜びを味わって
が、いざこのい、さうしては、この『い
まは笑劇』が、うまも舞台経験ができての場
だと思っしてごまか』と語ってごまか

★「子供たちが洗わねえ」の十六代男性

また「お笑いが好きなのよ」と茶屋貞八和郡
（市）から観劇に来た六十歳の男性は「うま
楽しかったわ。三回目へいごうが、みんな
まへへ演劇を演じてるなま、うまも感

「ライフライン断絶の中での入浴の喜びをうた
い上げた場面」と、達成感の中にもなおギャ
グが飛び交った終演後の記念撮影



す。何よの子供たちの一生懸命さに心洗われま
す。今日は船長役の子がうまかったのに感心し
ました。もつと阪神淡路大震災から二十年と
うまい劇の中に入り込みやすかったです。
関西汽船には自分も乗ったことがあり、懐かし
く気持ちも起りました」と話してごまか

★「目黒性生がしたと砂川さん

脚本演出を担当した砂川さんは終演後、次の
ように話してごまか
「今回サマエにフ重視のアバウトな演出稽
少なめ、子供たちの目黒性生重視のうま
は本番演劇でしたが、その面白さを味わって

もらえたでしょうか。船長の代役をワッチー君
が見事に務めてくれたのも、そのアバウトさが
却って幸い（笑）したのかもかもしれません。

今回の上演に際しては、震災の風化が問題と
なっている中、当時の経緯を、今日出演の子供
たちも命めて、次世代へ伝えたいという気持ち
を強く持ちました。また当時の避難所で、憔悴
し切った大人たちを尻目に、テレビ番組を見て
屈託なく笑う子供たちから元気をもらったこと
を思い出し、極限の苦難の中こそ笑いが大
切なことを改めて肝に銘じました。

脚本づくりにあたっては、元関西汽船の取締役
役船舶部長・平尾誠司さんから当時の船のお風
呂の様子を教えて頂くなどの協力をいただき、
心から感謝してごまか

この作品を通じて、災害を風化させず、次世
代へ伝えることの大切さ、そして、追い詰めら
れた極限下でこそ笑いが大きな力になることを
感じて頂ければ幸いです。

なお、「いもこヒー笑劇」についての問
合わせは井天町03020000生涯学習センター
(065770-1101)へ。

ガード下を明るく！

JR弁天町港高生がひまわり壁画を完成



→完成したひまわり壁画を背に喜ぶ港高校美術部・イラスト部の生徒・教師とみなりん112月二十六日午後、JR弁天町駅ガード下北側

「ガード下を明るく」と港高生がJR弁天町駅のガード下にひまわりの壁画を制作し、十二月二十六日(金)午後、その完成式が行なわれました。

港区役所は、高架橋脚などの落書きを消去し、街の景観向上に取り組むと共に、明るく健康的なイメージの「区の花ひまわり」で街を一杯にする運動を進めています。この壁画制作はその一環。一〇一三年末には第一弾として府立港高校(波除)と市国高校(市国元町)の生徒が同ガード下の中央大通り南側の壁(高架橋脚)に制作。第一弾の今回は北側の壁をキャンバスに、港高校美術部・イラスト部の生徒十数人が十一月十五日から二十五日にかけて仕上げました。式典には港高校の生徒・教師をはじめ、港区役所の担当者、JR弁天町駅の関係者らが出席。田端尚伸・港区長が「寒く中で一週間以上、このような形で港区を明るくしてもらって嬉しい」と感謝を述べ、港高校・吉田校長は「昨年に続いて名誉のお仕事を頂いた。これからも地域のために何ができるか、模索していきたい」と喜びと抱負を述べました。

←式典のあと生徒と一緒に説明板を貼る田端区長(上)と、凸凹面への塗り込みやグラデーションなど苦労の跡が見える壁画の一部(下)



制作した生徒のうち二年生の菊池さんと南波さんは「脚立に登ってペンキで描きました。毎日三時間ずつ、一週間以上かけて仕上げましたが、とても寒くて風の強い日が続いたので、手がかじかみ、辛く思った時もありましたが、それを乗り越え完成させることができました。(技術的には)凸凹の壁面にきっちり色を塗り込むのが難しかったです。綺麗になった壁を、ここを通るたくさんの人たちに見てほしい。少しでも美しく見えるよう花弁にグラデーション(ぼかし)を入れたりしたのを見て頂けたらなお嬉しいですよ」と話していました。

おじやましませす

居合道『水月会』

①



→ 老若・男女・体力を問わず居合道を楽しむ無
双直伝英信流『水月会』の皆さん(前列中央が
森喬会長)十一月十九日夜、弁天小学校で

無念無想の境地めざし

老若・男女・体力問わず楽しむ

「ゴッピ、ゴッピ」空気を裂く刃の音。ひんやりとした床。黒の道着に身を包み、ずしりと重く真剣を手に、素足で、黙々と居合の形を繰り返す会員たち。時折り指導者が声をかけ、手本を見せながら助言を送ります。

ここは弁天小学校の講堂。稽古に励むのは無双直伝英信流『水月会』の皆さん。毎週月曜夜に市岡中で、水曜夜に弁天小で例会を開催。港区の「生涯学習プログラム」の一つです。

◆ 武道の極意を得るため

同会は一九七一年、大阪府剣道連盟傘下の同好会として設立され、今年で四十二年。最高指導者は範士八段の森喬会長(八八)。他に高段位者四人も指導に加わり、その元へ二十〜七十代の二十数人が区内外から通っています。

同会ではこうした毎週一回の稽古の他に、各種大会への出場や昇段試験への挑戦、また泊りかけの研修・合宿などを重ねながら、各人の事

情に添じたレベルアップを図っています。

会名の由来は後鳥羽上皇の御製歌『ついでとも 月も思はず うすくとも 水もおもわぬ 広沢の池』。同会プログラムには「煌々と汗を流した月影が、広沢の池の水面に映っているが、月は映るつもりで映っているのはな、水も映るつもりで映っている訳ではない。月が雲間に隠れると同時に水面に映っていた月影もない。無念無想のうちに相手に対する武道の極意「水月の位」を会得するを理念として、おじやましませすを付けた」とあります。

◆ 居ながらの「敵」

「居合道」は、古武道の「抜刀術」を元に、戦国時代から江戸初期の剣客・林崎甚助が創始。鞘から刀剣を抜き、納刀するまでを一つの独立した「武道」と捉えているのが特徴で、これは世界でも日本だけのもの。文字通り「日常の場で」居ながらにして「敵」を倒す「居合」がその真髓。打ち合いや激しい運動がないのが老若・男女・体力を問わず楽しむ、例えば近年の初段取得者の約二割は女性が占めています。

同会の「無双直伝英信流」は、この居合道が

盛んだった江戸期に長谷川英信が創始した流派で、**抜刀・正座・立膝・奥居合・早抜き**など七つの形から成り、さらにそれぞれが四十二本の技から構成されています。

◆ 手本見たからアドバイス

さて、冒頭の場面に戻しましょう。この日は十数名が参加。五十〜六十代男性を中心に、二十代前半の初心者らしい女性、学生風で立派な体格の三十代男性、職場から慌ただしく駆け付けた四十代男性などが見えます。稽古を始める時間は各人の事情によってもちまちま。道着に着替えて講堂に入るや、まず指導者に一礼し、それぞれの持ち場で、自分の習熟レベルに応じた動きを繰り返します。

「上手になったなあ。体を傾ける癖を直せたらもう上手くなる」もつちよっと左の腰を出した方がええな。腰で押すと腰が打てる。その腰、この感じの「手本」だぞや。へなへながい腰。腰幅で構え、腰の回転で重心を移すたぞや」「振らねろの時に頭が出たらあかた」「梁の時に右手は臍の前」「ほ、ちよっと引えな格好になったな。けいまた手の締めが遅い」「相

←「基本は腰。腰で打てー」。高齢でもかくしゃくと指導する森喬会長。基本を踏まえたスケールの大きな忠言に絶大の信頼が集まる



手の刀を、はね上げながら、その流れの方向へ打つ。そうそうー等々、各人の動作の良い所や気になる所を素早く指摘し、手本を見せながら助言を送っていたのは、最高指導者の森喬会長。時折り「尻道ではおとなしいより勢いがある方がええ」「揃いの分けても前へ進めば気が大抵が大事や」「な、心構えを説く言葉も飛び出ています。そのうちだが、初めの言葉でも」なるほど「と納得できる。分かりますと言いついでした。

◆ 誰が格好かー

また、アドバイスを受けつづける記者

が見る限り、誰の背筋もすつと伸びて、とにかく姿勢が美しい！ 振り下ろしたり、突いたり、払ったりの動作も、実に格好いい！

その一方で、初心者と思われぬ女性には、年配の高段者が付きっきりで指導。立ち方や座り方には「腰を落とすように上品に」「お辞儀の仕方には「手をそろえ、肘を下ろすように」「さらには力の差し方・握り方・置き方などにも、分かりやすい説明と手本が、笑いを交えた穏やかな雰囲気の中で示されていました。

◆ 会長への信頼と尊敬

やがて、時間の稽古が終わると全員集合。上段者から順序正しく座り、会長に一礼して訓示を受けます。「この日は指導者の一人が「生涯現役スポーツ賞」を受賞したとぞや、直近の大会の団体戦で二位だったとぞやが報告された。最後に再び一回一礼して解散となりました。

以上、この日の集まりを見た限りでも、最高指導者・森喬会長に対する会員の信頼と尊敬は絶大であることが感じられました。そして、その後、その会場で稽古中の森喬会長、稽古道場のものに「ごめん、失敬してしまいました。」(すみ)

故郷の話をしてよう

福岡県・朝倉町出身

矢野 隆己さん（八幡屋）
（上）



→朝倉町は筑後川中流の北側に広がるのどかな田園地帯。連水車が今も田に水を送り続ける

「トク焼けが海を彩る 君の知らない僕の故郷 故郷の話をしてよう」（昭和四十年北原謙『『なまはたのはな』』）。生粋の港っ子にしようとも、他所から越してきた新旧の住民にしようとも、慌ただしい都会生活の中で、まだ見ぬ土地、これからも訪れることがないかもしれない異土に思いを馳せるのは、時空間旅行にも似た快感です。そこで幼小期・青年期の悲喜交々を織りませながら、皆で故郷の話をつまじやう。

今月からの語り手は、福岡県朝倉町出身で、現在は八幡屋二丁目でパソコントラブルの相談・解決を主業務とする「矢野システム研究所」を営む矢野隆己さん（トク）です。

◆昔の田のぬまを数えてみよう

朝倉町は福岡県の中南部にあり、筑後川中流の北岸に広がるのどかな田園地帯です。筑後川は町の南端を東から西へゆったりと流れ、その南側にはJR久大本線を隔てて耳納の山々が東西に連なり、その西側には久留米市街が広がっています。町の面積は三四・五ハキ坪米で港

→朝倉のシンボルである筑後川①と耳納連山②



区は四倍超と広大ですが、人口は約二万人で港区の一割強。町内に小学校は二校、中学校は一校ありますが、駅も線路もありません。いかに田舎であるか（笑）がお分かりでしょう。産業は米作が中心で、筑後川の水を引く田んぼからとれる米は、日本米のトップ百選の一つに数えられています。ほかに戦後、いくつかの特産品が生まれましたが、それらはあつて紹介しませう。また、各所旧跡は、有名な水車群や、斉明天皇にまつわる田跡などいくつもあります。が、それらもあつて紹介しませう。

◆それは繁しめです。では次に、町の歴史を

簡単に教えてもらいますか？

江戸時代までこのあたりは上座郡かみざへんと呼ばれていましたが、一八八九(明治二十一年)の町村制施行により、その中に朝倉・宮野・大庭・福成の四村が成立し、三年後の一八九六(明治二十九年)には上座郡が下座郡・夜須郡と合併して朝倉郡となりました。

それからの十三年後の一九〇九(明治四十二年)には大庭村と福成村が合併して私の出生地・大福村となり、私が中学生だった一九五五(昭和三十年)には朝倉・宮野・大福の三村が対等合併して朝倉村が発足しました。

それに私が大学生だった一九八二(昭和五十七年)にも町制施行で朝倉町と名前を変え、それ以来私が既に港区のパンコン相談所を営んでいた一〇〇六(平成十八年)には甘木市・杷木町と合併して朝倉市となり、現在に至っています。

このように、残念ながら朝倉町は消滅してしまいましたが、トホ。

◆ 随分と變遷の多い土地だったことが分かります。それと町の名前がなくなったのは寂しく思います。我が港区の名前も結構懐かしむところがあります。

で消えないように願っています。と、今でも町の特産品にはいたたまれがあまりありません。

先ほども言ったように、この辺りは米が豊産品といわれ、昔から食うことも食いつくすに困ることはありませんでしたが、戦後、それだけではいけない、少しは金も欲しい(笑)と、昭和四十年代頃から意識的に特産品として育成されたのが「博多万能ねぎ」と「富有柿」です。

このうち博多万能ねぎは鍋もの、すき焼き、炒めものはもちろん、特有の香りを活かして薬味にも使われ、料理に大活躍です。

因みに、ネギには関東の梅深うめふかや関西の葉ねぎ(言わね)がありますが、タマリツが葉のほかに根まで収穫するのは博多産のみです。



↑朝倉町の特産品、博多万能ねぎと富有柿

軍配があげられます。福岡で栽培されているのはその葉ねぎの九条系。特に東京方面で人気を呼んでおり、ほとんどの母口のように入産物として扱われます。特に朝倉町産は有名で、一九八六(昭和六十二年)に天皇杯を受賞しています。

また、富有柿は柿の王様ともいわれ、JA筑前あたら柿部会が推奨する、朝倉を代表する果物です。太陽の光に恵まれ、柿栽培に最適な筑後川流域の山あいでも育った富有柿は、大きくて、色・形が良く、果汁も多量、何より上品な甘味が一番の特長です。

◆ ーしかも、せう一度食べるといみじいです。次に町の名所を案内してもいいですか？

先ほども言ったように、主なものは、日本の史跡、堀川用水及び朝倉の揚水車(平成一年指定)があります。堀川用水は、昔から利水の方法を知らず」といわれていた筑後川に二六六三(寛文三)年、初めて設けられた大規模用水です。『筑前国続風土記』には「凡そ九箇村百五十町余の團田となりぬ」と記されています。が、その上流では土地が高いため、そこに水車を水を汲み上げました。一七八九(寛政七)年

「朝倉町の名所ナンバーワンは「堀川用水と朝倉の揚水車」。この菱野の三連水車は特に有名で、今も現役で広い田を潤している



には既この存在が記録に残り、現在でも菱野(三連)、三島(連)、久重(連)の水車が、合わせて三〇町歩以上の田を潤しています。

◆ 三連水車は名産観光として。他に？

国の天然記念物「隠家森」(昭和九年指定)があります。楠の巨木で、胸高周囲十八メートル、樹齢は千五百年以上ともいわれています。先の『筑前国続風土記』には此の恵蘇町の辺に「隠家の森」とあり。是は此関に名ののりりし者をば通さざりける故、此森に隠れるゆゑといひ伝えたりとあり、銀の採れる日田(大分県)

へ抜けるためにこの朝倉の関所を通りたくても通してもらえなかつた人が、ここに隠れて夜を待ったとの伝説からこの名がついたといわれています。因みに九州では楠を「森」とも呼びます。

◆ その巨木もぜひ観てみたいですよ。他に？

県の史跡「長安寺跡」(昭和三十八年指定)があります。奈良時代の寺院跡で、「長安寺」は現在の字名。記録には「朝鞍寺」「朝闇寺」とあり、「あそんくわん」と呼ばれていた時期もあったとされています。この周辺は朝倉、橋、広庭宮の有力な推定地でしたが、発掘調査の結果、七世紀以前では遡らない寺院跡であることが分かりました。奈良時代のたぐさの瓦や土器



→ 樹齢千五百年超と推定される国の天然記念物「隠家の森」の楠の巨木(上)と、奈良時代の寺院跡と分かった県指定史跡「長安寺跡」(下)

に混じって、墨書土器や木簡が出土しており、当時の貴重な文字資料となっています。

◆ 土地の歴史が感じられます。他に？

朝倉市の史跡「恵蘇八幡宮」(昭和四十五年指定)があります。その中に「おん」の「墳」は本殿裏の一番高い所にあり、「朝鮮の百濟救援のため飛鳥から移って来られ、朝倉橋広庭宮で崩御された斉明天皇を仮に葬った陵墓」と伝承されています。測量などの調査は行なわれていませんが、日墳状の高まりがあり、採集された埴輪の破片などから判断すると、五世紀の古墳である可能性が高いとされています。



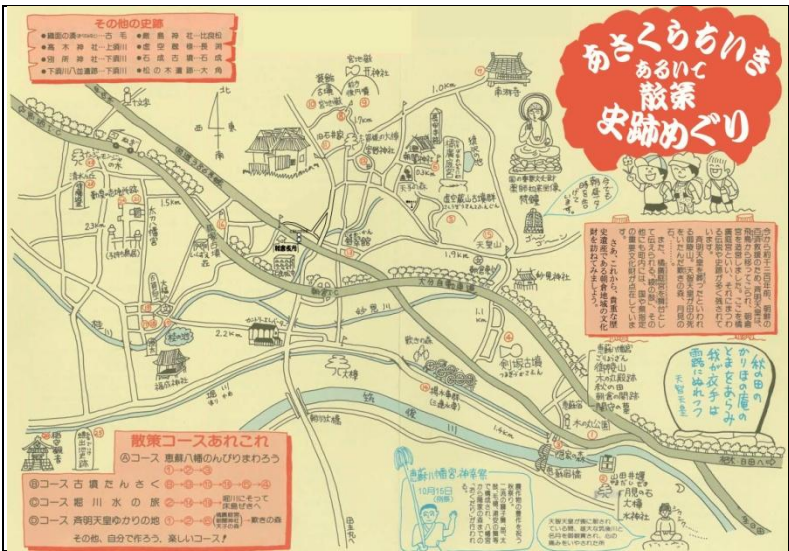
→ 朝倉で崩御した斉明天皇の仮の墓と伝承される「恵蘇八幡宮」二・二号墳(上)と、朝倉の関を守った関守の墓所と伝えられる「関守の墓」(下)

また、同じ惠蘇八幡宮の中にあつた関守の墓も市の史跡(昭和四十五年指定)です。参道の東側に柱状の自然石を加工した数基の石塔が建つてゐるがそれで、路はありませんが、先の善明天皇が朝倉橋広庭宮に遷居した際、東の守り(朝倉の関)に駐屯した関守を葬つた墓所と伝えられてゐるばかり、地元ではさう呼ばれてゐます。

◆ 居ながらにこの史跡めぐりのガイド(笑)、あつてほしいと思つた。その歴史ある土地から出られた者がいかにうまいな人がいますか。

『吉野大夫』(谷崎潤一郎賞)など有名な作家・後藤明生(一九三二—一九九七)は旧朝倉村から旧制朝倉中学校へ通ひ、ヘルシンキ五輪(一九五〇)の水泳八百リレー銀メダリスト。後藤暢は朝倉村惠蘇宿の出身です。他に範囲を広げて朝倉村出身とみなせる、飯田栄彦(児童文学作家、旧甘木市)、豊野与志雄(小説家、翻訳家・仏文学者、旧甘木市)、坂本一鶴(河出書房編集者、坂本龍一の父、旧甘木市)、初代梅ヶ谷藤太郎(第十五代横綱、旧杷木町志波)、業田良家(漫画家、旧甘木市)、樋口龍美(元甘木町下

← 地元観光協会発行の「史跡めぐりマップ」



ラゴンズ選手)、水無戸(う)漫画家)、古瀬美智子(女優)などがいます。

◆ 豊かな自然と歴史遺産に加えて豊かな人材(人)がいてほしいと思います。その朝倉町へ大阪から行きたい人がたくさんあが。

先にも言ったように、町内に交通機関はな、最寄り駅はJR筑後吉井駅ですが、そこからバスはありません。実際に来られる場合は、福岡空港か新幹線博多駅からバスで一時間かけて甘木駅(西鉄)甘木鉄道に着き、そこからバス(一日二本くらい)カタワシーを利用するのが便利、バスがなければタクシーでしょう。車なら自分自動車道のICから入れます。

◆ なお、この町の案内が終わりたくないので、まずはこの故郷への幼少期の思い出から。私は一九四二(昭和十七)年三月二十三日に福岡県朝倉郡大福村(その後、近隣の村と合併して朝倉町)に生まれました。村は筑後平野の中にあり、大げさに言えば、一里四万人家なし(笑)というつな田んぼの真ん中でした。それは今も変わりません。家から一キロほど離れたところを筑後川が流れていました。小さい頃は上流にダムがなく、山の木を運ぶための筏が下つてきたので、泳ぎを覚えている頃、それに乗って遊びました。船頭さんも大らかなもので、当たり前のように子供たちを乗せてくれたものでした。

みなと

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづいた『地獄ドラマ』。シリーズ第八弾は、田中在住の名もなき九十代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おとし」。

こうらんばし そら

幸運橋の空 (四)

前編まで 港区のブライサービスに通う大東久美子は次男の勧めで回想録を残すことになった。一久美子は一九二二年、六人兄弟姉妹の第一子として浪速区に生まれた。女遊びと賭け事に目がない父・弥太郎は腕の良いベルト職人だったが、久美子の生後間もなく解雇され西淀川区へ引っ越した。その後も同じ町内で引っ越しを繰り返して、父の浮気、祖母の死、妹の死など辛いことが重なった。が、小学一年生の頃は父の羽振りが良く、家の中はきれいだった。

● 父の友達が「質ついで」

が、やはり、良いものは続かなかった。この頃は、よく父の友人が「お金を質ついで」とやってくるのだ。母は「質すお金なんてあらへん。いっ何と必要か分かれへんに」と断っていた。が、「ほんなら、何が質になるもん質してくれるか」と言われる。父に内緒で父の兵衛帯などを質してやっていた。その友人は後口ごそりやってくる。土田の質札を母に渡していた。

その父の兵衛帯が要り用になった時、母は久美子に質札を持たせ、「お母さんはご飯の支度せなめかんから、お前が行ってくれるか」と久美子を野里の質屋まで使いに出した。野里は同じ西淀川区内だったが、久美子には随分遠く感じられた。午後五時に帰宅する父に間に合わせようと、久美子は三時頃から歩き出し、大きな池をぐるーっと回ったりして、ようやくへの思いでたどり着いた。が、その質屋の窓口は、数え九つで背も低かった久美子には高すぎて、質札を差し出す手がよく届かなかったのを覚えていて、どうにか兵衛帯を引き出すことができた久美子

は、遅くなって父に怒られるのが怖くて、暗くなった道を必死の思いで引き返したのだった。

● 短気だった父

こんな風で、前にも述べたように、父はとにかく気が短く、母は苦労した。お茶がほめてく冷めていかなかったり、こんな熱いもん、飲めるか、「湯飲みを放り投げ、」ご飯の堅やが気に入らなかつたらお櫃を引っ張り返して、すき焼きの味が気に入らなかつたら「こんなすきもんと食べるか」と鍋の中身を襖にぶちまけた。母にお金を無心して断られると、「なんでないねん！ 男が金持ってたかったら馬鹿にされんねんぞー」と怒鳴った。

● 父の博打癖に苦労した母

まだ相変わらず博打癖も直らず、「弥太やん（父は弥太郎なので、こう呼ばれていた）が『カネ都合せえ』ゆってますね」と賭場から使いの者がやってくることもあった。そんな時、母は家主の所へ借りに行き、それを久美子に賭場まで持って行かせるのだった。

深夜、帰ってきた父は、寝ている久美子の枕元に何気なくポンとがま口を放り投げた。久美

はじまり一年の成果

老人センターで 教室合同発表会



→ 一年間の学びや練習の成果を発表し合った「教室合同発表会」は十二月十日、港区老人福祉センター(写真は最後に飾った「歌体操」)

「一年間の学びや練習の成果をみんなで楽し

みましよう」と十二月十日、港区老人福祉セン

ター(文庫、宇津原正章館長)の各サークル・

教室による年末恒例の「教室合同発表会」(同セ

ンター主催)が行なわれました。朝十時から午

後四時ごろまで、民謡や民舞、ダンスや諷吟、

歌謡曲や歌体操などが次々と登場、年末の同セ

ンター大広間は終日熱気に包まれました。

発表会は三部に分けて行なわれ、板東忠則さ

ん、永峰化子さん、瀬溝桂子さんが各部の司会

を担当。六グループ・五十八組が自慢の出し物

を披露しました。

◆ 伸びやかに、朗らかに「民謡教室」

このうち「民謡教室」は全員や個人で『八戸

小唄』『黒田節』『淡海節』『おともやと』『姉こ

も』』『秋田おぼし』『郡上節』『秋田節』『新庄

節』『臺代節』など十四曲を発表。

この中で石村博之さんは、お目出度い席での

祝い唄として有名な佐賀県民謡『万才くづし』

を「エイエイエン コリヤアイエンナー コリ

ヤンダー ソンター」といって独特の相の手も得て

口を大きく開き、伸びて張りのある声で、明る

く力強く唄い上げました。

また西中隆子さんは、粋で気品のある調子が

特徴の大分県日田のお座敷唄『コッコッコ節』を、

お座敷にいるかのようなゆめったりりした表情で、

気持ちよそそと唄い上げました。

また迎込久男さんは、豊予海峡(速吸瀬戸)

での鯛の一本釣りの勇壮な光景を詠った大分

県民謡『関の鯛つり唄』を、楽しげな相の手を

得、表情も生き生きと、ユーモラスな雰囲気も

漂わせながら唄い上げました。

また高村ツヤ子さんは、海の男の船出の哀

愁へ、留守を守る家族の慕情を詠った長崎県



→ 伸びやかに『万才くづし』を唄う民謡教室・

石村博之さんら(上)と、朗らかに『関の鯛つり

唄』を唄う同・迎込久男さんら(下)

民謡『串木野さのさ』を、歌詞の意味をかみしめながら、口を大きく開けた誠実・丁寧な発声で唄い上げました。

◆ 情感込めて、力強く「歌謡クラブ」

また「歌謡クラブ」は個人や全員で『高尾山』『大阪流転』『銀座の恋の物語』『峠越え』『河内次郎長』『遠い空だよ故郷は』『博多時雨』『壺坂情話』など十曲を発表。

「」の中で羽室朝子さんは、死ぬまで苦楽を共にこつこつ夫婦の熱い愛情を詠った『べい呑み酒』(川中美幸)を、安定した音感・リズム感と透明感のある声質、落着いたマイクさばりでこつこつやかな表情で、情感一杯に歌い上げました。



→ 温かな情感込めて『べい呑み酒』を歌う歌謡クラブ・羽室朝子さん(上)と、迫力ある発声で

『津軽暮情』を歌う同・森本静さん(下)

また森本静さんは、津軽への望郷の思いを痛いほどに込めた『津軽暮情』(福田こうへい)を、身振りの力強く、一言一言をかみしめながら、男性的な迫力ある発声で歌い上げました。

◆ 朗々と、肚の底から「詩吟教室」

また「詩吟教室」は全員や個人で『佳實好主』『山中幽人と対酌す』など五詩を発表。

「」の中で藤原勉さんは、口露戦争で乃木希典將軍が長男戦死の地での感慨を託した『金州城下の作』を、詩の一字一句に思いを馳せるように、じつくり朗々と吟じました。また藤部泰臣さんは、富山県の名峰・立山への畏敬の念を込めた『立山を望む』を、眼前にその姿を見るかのような姿勢と表情、肚の底からの発声で、力強く吟じました。

◆ きびきびと、柔らかく「民舞サークル」

また「民舞サークル」は全員やグループや個人で『祝い節』『祢三郎節』『鶴亀踊り』『松小唄』『八木節二代』『筆まつり』『三國節』『いなし船』『木場の女』『塩田小唄』『仙台節』『野毛の山』など十四曲を発表。

「」の中で前田禮子さんらは、灘の酒造り唄の

「きびきびした動きで『灘の酒造り唄』を踊る前田禮子さん(上)と、柔らかい動きで『八戸小唄』を踊る福西邦子さん(下)



中でも一番有名で、蒸し米と麹と宮水を桶の中ですりつぶして酒母(酒のひ)を作る作業(既すり)の際に唄われた『既すり唄』を、蔵人の心意気を進らせるかのように、きびきびとした動きで披露しました。

また福西邦子さんらは、港町・八戸の朝の風景を情感豊かに詠い込んだ青森県の新民謡『八戸小唄』を、旅情を誘うかのような柔らかく伸びやかな動きで演じ、会場じつじつと港町の風情を漂わせました。

◆ 北海道誘つスナッピーダンス倶楽部

また「ダンス倶楽部」は全員やペアで『ハイ

ナッブルプリンセス』『花』『恋は水色』『アマ
イジンググレース』『夜のタンゴ』『アモーレ』モ
ナムールマインラブ』『嵐の光』など九曲を発表。

この中で最後に全員によりて披露されたマン
ボ『北の漁場』では、荒海での仕事に命をかけ
る漁師の勇壮・豪快な心意気が、力強く爽快な
ステップに乗って進み、見る人をしばし北の
海へと誘っていました。

◆ムード高めた演習「健康教室」

また「健康教室」歌体操グループは第一部と
第二部のそれぞれ最後に四曲を発表。

この中で、『寒く朝』などの歌唱指導では「昔
永八百さん pensando 思い出しながら歌いましょ」
などの呼びかけが、手指体操の指導では分から
やすい解説と声かけが、共に参加者の年齢幅を
考慮した心づかいがこもって温かく映りました。

また歌体操『まじり殿様』と『新 十一世紀』
は、はじりもリズムミカルなメロディに乗せた軽
快で弾力した動きが会場のムードを弛が上
げ、各部のリストを飾るにふさわしい盛
り上がりをもたらしました。

◆「世田おのがおと」と歌謡クラブの女性

「爽快なステップで『北の漁場』を踊るダンス
倶楽部」と、民謡などの三味線伴奏を務めた
(奥から 藤本春菊師匠と土生美代子さん)



終了後、出演者に話を訊きました。

このうち「歌謡クラブ」の会員として『べ
呑み酒』を歌った羽室朝子さん(七五)と弁天在
住さんは「この歌は、歌謡クラブ・吉岡英雄会長
からの『せむ歌ってほい』とのリクエストで
歌いました。もともと歌うことが大好きで、歌
謡クラブには二年前に入会しました。月一回練
習していますが、思い切りの声を出せ、本当に楽
しくいよ」と話していました。

◆「肚から声を」と民謡教室の男性

また「民謡教室」の生徒として『万葉集』
を唄った石村博之さん(七四)は港晴在住は

「月一回練習しています。詩吟を三十七年もや
ってきたので、少し表現の幅を広げたいと一年
ちよつと前に民謡教室に入りました。きちんと
歌うためには、詩吟も同じですが、歌詞を完全
に暗記し、意味をかみしめ、肚から声を出すこ
とが大切です。難しいですが、やりがいを感じ
ています」と話していました。

◆「寝たきり予防」と歌体操の女性

また「健康教室」歌体操グループの代表とし
て『新 十一世紀』などをリードした中田菊代さ
ん(七〇)は「寝たきりにならない
よう・寝たきりにさせないよう・寝たきりをしな
らないよう」を合言葉に、約二十人で活動して
います。このセンターでの週一回(火・水)の例会
を基本に、月一回の難波O.O.A.T.での講習で研
鑽を重ね、月数回は介護施設を訪れます。年一
回の大阪府中央体育館での国際大会や弁天町才
一ク『春いちばなコンサート』への出演なども
励みになっています。皆さんを元気にしながら
これからも健康をまもり、いつも楽しくやがが
のめ活動です」と話していました。

ライブ情報

● 八幡屋出身のロックドラマー **桐田勝治さん** きりたかつじ

日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。「周りを元気づける灯台のよつなミュージシャンに」と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガウノイル」の十八枚目のアルバム『解識(げしき)』(十一曲、三三〇〇円)が好評発売中。 ☎〇三・三三三・八八・九二八〇フ
 アーストセル▽一月 土日(火)十九時から和歌山 SHELTERで 一月 土日(金)十九時から
 京都劇場で、二月 十一日(土)十八時半から
 尼崎市総合文化センターあましんアルカイックホールで開催の所属バンド「ザ・クロマニヨンズ」のツアーライブ「ガンボインフェルノ2014・2015」に出演予定。 ☎六二五七・四四〇〇サウンドクリエーター。



↑ 桐田勝治さん(上)とアーストセルさん(下)

● 三先のフォーク歌手 **ペドロさん** 切断ブラザー

―ズ(左手親指切断の共通体験を持つ)三人バンド、ぼん、ちゃん、で二〇〇六年に結成のリーダーやソロで温かな雰囲気のアレンジアルバム『オーケストラ』▽毎月第一・三木曜各二十時からバー「ザ・セラー」(中央区西心斎橋一・一七・一三新スミヤビル地下、☎六二二二・六四三七)で「アメリカ村フォークジャンボリー」を主宰▽毎月第一火曜二十時半からバー「ロージ」(中央区西心斎橋一・九・五 玉三ツ寺会館地下一階、☎六二二三・三九九九)で開催のノンジャンル企画ライブにレギュラー出演▽毎月第二火曜二十時から「かつおの遊び場」(中央区宗右衛門町四・五 宗右衛門町センタービル二階、☎〇九〇・五八八一・七〇二五)で開催のノンジャンル企画ライブに「切断ブラザーズ」としてレギュラー出演。

● 市川元町在住の音楽ユニット **「花☆キャラ」**

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルグリータと下駄パスタ』『あなたらしくめだらしく』好評▽http://www.ocn.ne.jp/~osaka-minatonews.sakura.ne.jp/

↑ 花☆キャラの演奏風景



ocn.ne.jp/shanana2383 (港新聞ホームページにリンク)

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/

平和のため

戦争体験

語り継ごう

すぎはらあなこ

杉原麻子さん(九四) 南市岡在住 ⑥



前編より 一九一〇年香川県に生まれた私は

中国での戦火拡大の中、看護学校に学び、赤十字病院では傷痍兵の看護に追われた。二十歳で結婚し、満州の新京へ。不自由ない生活を送ったが、四五年八月、ソ連参戦で北朝鮮へ疎開

のあと再び新京へ。しかし我が家は略奪され、難民收容所は地獄の光景。一方、戦地の夫はソ連の捕虜となったがシベリア送り列車から脱出し、再会を果たした。十月、酷寒の病院で長女出産。引越し先で三家族の共同生活が始まったが、新たな困難が待っていた。

生きるため何でもした

共同生活、食品作り、略奪…

ソの共同生活は、初めのうちお互いに遠慮なく、協力していたのですが、五歳を頭に三人の子を抱えた大きな奥さんは時々「スリー」を起し、当たり前散らすようになってしまった。その一方で私は随分と気を使い、これまでとはまた違う困難に戸惑いました。乳不足でもずかる我が子を背に戸外へ出、凍て付く夜露を眺め、幾度泣いたことでしょうか。「ああ、星になつても早く日本へ、故郷へ帰りたい…。そんな私の気持ちを察したかのように、流れ星が一つ、すーっ南の方へ消えて行きました。

◆ ポン菓子製造機を探せ

街にはソ連兵があふれ、ソ連軍発狂の「軍曹(お金の代わり)が出回りました。しかし男が出る、人間狩り」に掛かり、拳銃を突き付けられたら最後、トラックに乗せられシベリア送りになった、という話をたくさん聞いたので、なるべく女が買出しに出るようになってしまつた。

その一方で、疎開の時に持っていた日本のお金はいよいよ残り少なくなりました。生きるため、生きて故郷に帰るため、私たちは額を集め、収入の道を探りました。すべし、すまい具合にポン菓子製造機があることが分かったのでそれを使い、高梁や玉蜀黍を材料にポン菓子を作つてみよつとつとつとになりました。が、素人はかりで要領が分からず、失敗ばかり。釜の口を開けた瞬間、原料がパッと飛び出ているのですが、そのままの形でちよろちよろ…。みんなで大笑いしたこともありました。

それでも何度が失敗を繰り返してついに上手になり、一応製品になつたのでおき着きました。が、翌日から本格的に作りましようつと話していたその晩、機械を盗まれて、初の共同事業はあんな頓挫。

◆「こにゃくや豆腐もまがけ」

次は日本軍の倉庫から出た「こにゃくや」の粉が手に入り、「こにゃくや」を作ることになりました。「これまた全く素人。水と石灰の割合が分からず、固まらないクニャクニャのができたり、カチカチのができたり。でも失敗は成功のもと。こにゃくや作れるようになった。」

当時「こにゃくや」が売れたのは、山内明さんが近くにおられ、出来立てを酢味噌で試食して頂へ、「こにゃくやおいしいの初めてだ」と誉めて下さいました。それで自信を得、製造も軌道に乗り、「生活の見通しがついた」と思ったなら、今度は原料が入らなくなり、中止。ソ連軍が「こにゃく粉をパン粉に間違え、食糧に積んで持って行くつもりでした。」

「こにゃくや」は、今度はずっと入りやすくて豆腐を仕入れて薄く切り、油揚げやひよこ豆の製造を始めました。最初から高温の油に入れると縮んでカチカチになるので、鍋を二つに分け、低温で煮る時間をかけてから高温の鍋に移すという

←敗戦直後から大混乱が見られた満州各地



必要のあることを思い知らされたものでした。

◆「強盗」一切を浴びて

そんな風に私たちが苦労している一方で、敗戦にも疎開することなく、家も家財も無事だった人は、衣類などを売って生活していました。そして、そんな人たちが一カ所に集まって賑やかな市が立つようになったので、私たちはそこで必要な物を買つていきました。

十一月に入るとソ連軍引き揚げの噂が立ち

始めました。そうなるソ連軍発行の「軍票」が紙くす同様になってしまっています。それまで「こにゃくや」持ちの軍票を一刻も早く満州紙幣が日本田に換えておくと必死でした。

とはいえ、その頃の私にはまだ、枕の中に縫い込んだり水屋へ隠したりといった形、ある程度の日本のお金を持っており、少しは余裕がありました。

ところが、そんなある夜、裏口のガラス戸を壊して黒覆面をした六、七人の男たちが長い棍棒を持って押し入ってきました。寝ている私たちを見さかしく殴り付け、「チエンメイユー（お金はないのか）」「チエンメイユー」と怒鳴りながら家の中を掻き回しました。そして枕、水屋、戸棚などに隠しておいたお金ごとにお金を見つけ出し、最後は防寒用カーテンまで引きちぎって持ち去ったのです。部屋の中はすっかり空っぽ。みな恐ろしくて寒さで震え上がり、口もきけない状態でした。「内地（日本）へ帰る時のために」と、こんな生活の中でも少しづつ整えていた品々もなくなり、また初めからやりなおします。

高水準の熱唱に声援

区老連が恒例カラオケ大会



→高水準歌唱に声援が飛んだ区老連カラオケ大会(写真は『男意地く田原坂』を熱唱する土屋久子さん) 〓十二月十三日、港区民センター

熱年パワーが高水準の熱唱となって炸裂。十二月十三日(土)、港区民センターで行なわれた港区老人クラブ連合会(原田壽会長、二十三クラブ・一五八〇会員)主催の年末恒例「カラオケ大会」には区内の各老人クラブから精銳が出場。曰く鍛えた喉を競い合い、屋外の寒風をもともせめ熱気で会場を包みました。

♪「選曲」「人気」「歌唱力」で審査

カラオケ大会は同日前から行なわれた「第二回港区老人クラブ大会」(二十八頁)記事の第一部として午前十一時半に開会。小西昭人副会長(厚生文化部長)の総司会のもと、審査委員五氏と音響などの裏方二氏が紹介され、進行役の二氏(仁木功・池島楠友)寿会会長と喜多時男・南市岡寿成会会長にバトンタッチ。審査方法(選曲)「人気」「歌唱力」の二点を基準に各審査委員が三十点満点で採点し、総司会で順位を決める。が説明され、熱戦がスタート。佐地年一さん(A.P.M.澤信楽部)の『スターダ節』(ハナ肇とクレイジー・キャッツ)を皮切りに、三十五人が次々とマイクを握りました。

♪ Vへの執念めいた各クラブ

「亡夫への想いを込めた『壺坂情話』で優勝した前川輝子さんの熱唱」シルバー新聞社提供



いずれおらぬ歌唱力の高さと共に、歌い手の背後で応援の踊りなどを繰り広げる各クラブの優勝への執念、音響機器の不具合や進行の不手際にも笑いやギャグで応じる会場の「老人力」、またトイレ休憩を一回挟むなど高齢者への配慮ある進行ぶりも印象的でした。

♪ 藤かほりさん復活デビュー

締めくくりには前年度優勝の三辻たず子さん(南市岡寿成会)が、情感込めた台詞や堂に入った身のこなしも美しく『大阪情話』(中村美津子)を披露して「さすがやなあ」と会場を唸らせると共に、特別出演の歌手・藤かほりさん

「時に泣くように、時に囁くように情感込めて『南部輝しぐれ』を歌い上げた羽瀬安未さん^①と、力強い男性的な発声で哀感溢れる『さんかの宿』を聴かせた福井督廣さん^②



が『関東春雨傘』(美空ひばり)『知覧の母・ホタル』(歌川三子)『男の夢十二代』(持ち歌)『河内おどり節』(中村美律子)などを熟唱。事故で二十回目の『遺棄入チャリティショー』(九月に予定)を開催できなかった痛手からの復活をアピールしました。

♪ 『喜坂情話』の前輝子さん

審査の結果、優勝は『喜坂情話』(中村美律子)を歌った前川輝子さん(築老クラブ)が獲得。準優勝は『江ノ島ひとり』(三代紗世可)の岡村弘子さん(弁天寿楽会)、二位には『夢追い酒』(渥美二郎)の森本静さん(第二田中

長寿会)が入りました。

また、歌の背後での応援ぶりなどをクラブ単位で競つコンクールでは、『敢闘賞』に市岡元町長生会、「がんばつたで賞」には南田岡寿成会「アイデア賞」には弁天長楽クラブ、「楽しんでくれたで賞」には築老クラブが、それぞれ選ばれました。

♪ お互い元気な最後を

閉会式では数井清澄副会長がこれら審査結果を発表し、原田会長が各賞受賞者に表彰状やトロフィー、記念品を授け。

最後に藤家順副会長が「今日は皆さんの熱



→ 張りのある高音に情感を込めてじっくりと

『長良川艶歌』を聴かせた森下満男さん^①と、一語一語かみしめるように女心の哀しさを表現した『江ノ島ひとり』の岡村弘子さん^②

「男の哀感を漂わせ、骨のある声と滑らかな抑揚で『男の背中』を歌い込んだ川崎恭三さん^①と、柔らかな声質で感情表現も豊かに『祝しぐれ』を聴かせた手島百合子さん^②



唱で本心に楽しく、十歳以上若返った。これからもお互い元気な最後を過ごしましょう」との「お礼の言葉」で大会をしめくりました。

♪ 優勝曲は夫婦愛を描いた『喜坂情話』

審査員から「口を大きく開けて声がよく通り、聴き取りやすかった」「リズム感が抜群だった」などの評価を得、数回目の出場でもじめて初優勝に輝いた前川輝子さん(七九)＝築港在住＝に感想を訊きました。

優勝曲は『喜坂情話』。言目の三味線弾き・沢市を恋女房のお里が「見えぬ杖」となつてどこまでも支え続ける夫婦愛を描いた浄瑠璃の世

「身のこなしもダイナミックに荒々しい『北の漁場』を聴かせた大川勝さん①と、ダンディなマイクさばきでじっくり語りかけるように『ゆめかぜ』を歌い込んだ松本洋昭さん②



物語を題材に、たかたかしさんが作詞、富田祥二さんが作曲、中村美律子さんが二〇〇四年にコーディング。舞台上では前川さんの情感あふれる歌唱と共に、「あなたの涙は私の悲しみ。あなたの笑顔は私の言葉。お里は一生、いっしょ、未だの世までもずーっとあなたの妻ですよ」との台詞も会場の感動を誘いました。

♪「君を想いながらう」

前川さんは「優勝と聞いて『まさか』とびっくりしました。これまでに『民謡や踊り』、楽器演奏『ア・ニカ』なども楽しんできましたが、カラオケは十数年前に始め、月一回はシルク（磯路の

カラオケ喫茶）で、月一回は築港小学校の生涯学習ルームで練習し、今では色々な歌の世界に浸れることが生きがいにもなっています。この歌は、目の見えない夫をどうでも助けるという内容なので、テクニックよりも心を込めて歌いました。歌いながら、二十年ほど前に六十九

歳で他界した夫・恒夫を思い出し、「こんな風に、もっともとお世話してあげたかった!」「この声が気持ちがあ天国に届いてほしい!」と感情が入って涙が出ました。優勝は、応援して下さった築老クラブの皆さんや、アドバイスして下さいました歌仲間のお陰。トロフィー



→『関東春雨傘』などの熱唱で事故からの復活をアピールしたゲスト歌手・藤かほりさん①と、台詞や身のこなしも美しく『大阪情話』を聴かせた前年の覇者・三辻たす子さん②

「は夫の仏壇の横に飾ります。これからも皆さんと一緒に、元気で楽しく歌い続けて参りたいと思っています」と話していました。



→息詰まる熱戦を制し、原田壽会長(右端)から表彰を受けた左へ)優勝・前川輝子さん、準優勝・岡村弘子さん、三位・森本静さん

みなとカルチャ

● 港図書館

①あかちゃんのおたのしみ会
毎月第一全曜日(二月は八日)の十一時〜十一時半にじゅたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよつこま。毎週のおたのしみ会より赤ちゃん向け。申込不要②おたのしみ会(毎週水曜日)の十五時半〜十六時にじゅたんコーナーで。幼児を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアターなど。申込不要。一月十一日は祝日のため休み③図書展示(大阪を舞台にした小説展)二月二十八日(土)まで開催中。江戸時代から平成まで、それぞれの時代に描かれた小説を展示④(三)図書展示(港図書館に寄贈していただいた時代小説文庫本)展(二月三十一日)迄まで開催中。時代小説は幅広い人気があり、よく利用されている。寄贈者に感謝⑤かみしばいをたのしもう(二月七日)十九時半〜十八時に港市民センター一階「橋」で。紙芝居一座「せせの風」が楽しいお話の紙芝居。申込不要(六五七六一三三四六)

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「第六回 定期演奏会」

「神がかった靈感を備えた新鋭」…その名は「ボガ」と題し、気鋭の新進指揮者・アンドリス・ポガさんと注目の若手ピアニスト・中野翔太さんを迎えて新年最初の定期演奏会。演奏曲目は、①ブラームス(生誕百五十年)：祝典序曲 作品73 ②ヒンデミット：主題と四つの変奏曲「四つの気質」③チャイコフスキー：交響曲第4番 へ短調 作品36。一月十三日(金)十九時から、シンフォニーホール(JR大阪環状線「福島駅」から北へ徒歩約七分)で。S席六千円、A席四千五百円、B席三千円、C席一



→指揮を担当するアンドリス・ポガさん(©M

arc Giinnot)と、ピアノ独奏を担当する中野翔太さん(©Yuuji)

千円、学生席千円(全席指定・消費税込)。六五七七・二三八一。

● 井田町ORC200生演奏センター「和のくまコンサート」

和楽器ユニット「響」による津軽三味線・箏・太鼓・舞踊・唄などの演奏で日本の名曲を楽しめ。曲目は『春の海』『秋田大黒舞』『津軽ライヤ節』『黒右衛門』から『RIN・輪』など。一月十八日(日)十四時から。先着二〇名。料金は当二千八百円、前売千五百円。六五七七・一四一〇。

● 井田町ORC200生演奏センター「春一番 雅楽コンサート」

日本最古の音楽にして世界最古のオーケストラといわれる雅楽を、天理大学雅楽部による多彩な演奏と分かりやすい解説(歴史・楽語など)で楽しめる。一月八日(日)十四時からオーケホール(オーケ200六階)で。小学生以上。先着三百名。高校生以上当二千八百円(前売千五百円)、小学生九百円。六五七七・一四一〇。

● 井田町ORC200生演奏センター「押し絵 一口体験」

来年の干支「未」の笑顔をテーマにカレンダー付きオリジナル押し絵づくりに

ヤレンジ。一月二十九日(木)十四〜十八時。講師は西川節子さん(大阪市民生進学習インストラクター)。定員 千名(先着順)。受講料千五百円(教材費含む)。持ち物は目打ち・ペンセット・はさみ。☎六五七七一四二〇。

● 弁天町ORC2000生涯学習センター・オーク弁天寄席 旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第九回、通算第一四二回。一月二十八日(水)十九時〜二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講師、旭堂南校門下)をしギョラーに、今回は桂文福さん(和歌山



→ 弁天町ORC2000生涯学習センター「オーク弁天寄席」にしギョラー出演する落語家笑福亭學光さん(上)と講師、旭堂南麟さん(下)

← 「第二四二回オーク弁天寄席」に出演する桂文福さん(上)と森乃石松さん(下)



県紀の川市出身、桂文枝一門、森乃石松さん(香川県出身、森乃福郎一門)も、先着千名。当日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC2000店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四一〇。

● 弁天町ORC2000生涯学習センター・弁天シネマ倶楽部『欲望という名の電車』 「心に

残る名作映画を低料金で多くの市民に」と旧・弁天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第四回、通算第二十七回。一家も財産も失い、妹を頼ってニューオーリンズの下町へやって来た未亡人フランシ・デユボア。妹スエラの夫スタンリーは、高慢なブ

ランチに憤りと不信感を抱いていた。彼女もまた、粗野で暴力的なスタンリーを嫌い、たびたび衝突する。そんな中、スタンリーの友人ミッチと惹かれ合い、結婚も意識し始めたフランチ。だが、彼女には決して明かすことのできない重大な秘密があった。アカアミー主演女優賞をはじめ四部門、ヴェネツィア国際映画祭審査員特別賞、女優賞など、多くの賞に輝いた傑作。

監督はエリア・カザン。出演はヴィヴィアン・リー、マーロン・ブランド、キム・ハンター他。一九五二年、アメリカ、モノクロ、一二二分。一月三十一日(土)十時と十四時から講堂で。料金は一人一回六百円(前売五百円)。定員は各回



→ 弁天シネマ倶楽部『欲望という名の電車』からヴィヴィアン・リーとマーロン・ブランド

先着百名。当日十一時十分頃からロビーで無料ライブ(大正琴などがよし)会の演奏を予定。〇六五七〇・一四一〇。

● **ねじやらしのシヤンテ☆カフェ** 懐かしい歌にきいも若きも声を合わせ毎月例イベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四一〇)で。不定期にゲストを迎え、リクエスト中心に約一時間。歌集貸与。参加費千円(税込)。第九回(一月)は会場の都合で第五水曜(二十日)。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所(弁天四一〇〇三〇二〇)ハ六五五六・六八八八、http://necojyarasai.jimdoo.com/または「めずりのは会」(〇六五七一一六八四三)まで。



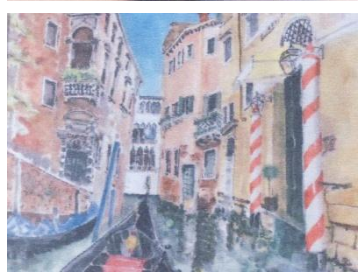
→過去のねじやらしのシヤンテ☆カフェから

● **関西フィルとともに歩む会「オーボエ演奏会」** 港区を拠点とする同フィルを応援する同会恒例の地域密着「コンサート」。今回は「新世界交響曲」でお馴染みの深い音色を奏でるオーボエが主役。同フィルのオーボエトップ奏者・佛田明希子さんが「この楽器の魅力や特性を知って身近に感じてほしい」と、①J.S.バッハ:オーボエ協奏曲 BWV1059より Adagio

②サン＝サーンス:オーボエソナタ Op.16
③クララ・シュマン:3つのロマンスより一等を演奏。一月十四日(土)十五時から港ルーテル教会磯路(二一・一八)で。参加協力費千八百円(中学生以下五百円)。乳幼児は不可。要事前予約。問い合わせ・申し込みはTEL.FAX 六五七四・七七五六 足立代表世話人まで。

● **ぎやらしりー&かふえ風庵「上江洲茂夫・有子陶芸・絵画展」** デザイナー出身で、「飾る楽しさ」を形に「自然の美を求めて」大正区で陶芸・絵画教室を営む夫妻が、イタリアの風景などを題材に陶芸作品(信楽粘土・萩粘土など)を使用した飾り物・食器(茶碗)や絵画作品(水彩・アクリル・墨筆など)に上江洲の風景画・静物画などを展示。

←風庵「上江洲茂夫・有子 陶芸・絵画展」からイタリアを題材にした陶芸作品①と絵画作品②



一月十五日(木)〜二月十八日(土)。「風庵」は南市国二(二一〇)繁栄商店街内、〇四九六(五・五九八)十時〜十八時開館(日曜定休)。

● **シネ・ヌーヴォー『生誕90年 三島由紀夫と増村保造』** 戦後日本文学を代表する作家・三島由紀夫は今年、戦後日本映画に新風を吹き込んだ監督・増村保造は昨年、生誕九十を迎えた。同時代を生きた二人巨匠にまつわる作品群から二十八本を二月十七日(土)〜二月二十日(金)に上映。三島が遺した絢爛たる美と観念の世界増村の余りに面白いくわいでモダン・スティックな映像世界が甦る。上映作品は『氷壁』『不敵な男』『親不孝通り』『恋にいのちを』『女

の一生』『黒の報告書』『嘘』『べわん隊純情派』『大悪党』『千羽鶴』『やべえ絶唱』『音楽』『潮騒』『燈台』『黒斬鵲』『複雑な彼』など。当日一般千五百円。上映スケジュールなど詳細は同館(西区九条一・二〇・二四)地下鉄中央線九条駅⑥出口歩三分、阪神なんば線九条駅②出口歩三分、☎六五八二・一四二六へ。

● **リポート山中新春コンサート** 温かくユーモラスなメッセージングでおなじみのリポーターさんが一月二十四日(土)に恒例の港区での年末年始コンサート。第一部は十三時半から

『あの、懐かしのフォークソング』。第二部は十五時半から『リポート山中オリジナルソング』。第二部は十七時半から『リポート山中ととも』PARTY』。各部一千円(組合合わせ割引券あり)。問い合わせ:申し込みは会場の石炭倉庫(除六・五・一八)JR弁天町駅から国道四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右へ。☎六五八一・〇六六四へ。

ひとくちPAR

(二行)税込二〇〇〇円

● **そごはの学習でもちがが変わる！** 右脳活性化

見直される効用。そごはの教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友綜合教室 **検索** (夕丘一・一三七)三津神社西側 ☎六五七二・六八七七。

● **放課後・春夏冬休みは学習保育へ** 入所見募集。

指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。

シングル掛敷ふとん一万円。ふとん館ひらのや(南田岡三二・一八)繁栄商店街東入口フロアダイヤル〇二〇・四二四九・五五〇。

● **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送、お出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミニト(八幡屋一四・八)入舟公園前、大阪信金横十、十八時営業、日曜定休。

● **ピアノはじめませんか** 大きい人も小さい人も初歩から楽しくレッスン。☎六五七四・三

● **東條和恵(磯路一・一〇・一)。**

ひとくち伝言板

● **差し上げます** 寝たきり婦人用介護ねまき

(ファスナー付M寸)新品一着。区内なら直接お渡し。☎〇九〇・五八九八・一九四五千石。



読者プレゼント

※いずれもハガキに当日の感想とプレゼント名を書いて十日必着で港新聞へ。

● **関西フィル「第六回定期演奏会」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「オーク弁天大席」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「春一番/雅楽コンサート」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「石炭倉庫「リポート山中新春コンサート」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「石炭倉庫「リポート山中新春コンサート」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「石炭倉庫「リポート山中新春コンサート」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「石炭倉庫「リポート山中新春コンサート」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「石炭倉庫「リポート山中新春コンサート」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **「石炭倉庫「リポート山中新春コンサート」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。